
文化資源研究センター 活動報告

2015

人間文化研究機構
国立民族学博物館

はじめに

文化資源研究センターは2004年4月、国立大学の法人化に合わせ、民博が大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員として再編されたのを機に、博物館機能を有する研究所としての役割をより十全に発揮するために、研究戦略センターとともに設置されたものです。

文化資源研究センターは、研究活動を通じて蓄積されるさまざまな情報や資料、経験や組織を、社会での活用が可能な文化資源として改めてとらえなおし、その有意義な活用の方途を研究・開発することを目的としています。「文化資源」という言葉に託されているのは、人間が生みだした有形・無形の所産とそれをめぐる知を、民博の活動を通じて、より広く社会と共有しようという意志です。

研究の推進に伴う資料や情報の集積と発信は、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示といった分野からなる一連のプロセスを経て実現されます。文化資源研究センターはこうした各分野の基礎研究や開発研究を進めるとともに、民博の研究者が主体となって実施する「文化資源プロジェクト」と「文化資源計画事業」を支援し、その推進のうえでの企画調整を行なっています。

2015年度、文化資源研究センターでは、プロジェクトや事業の支援として、資料収集や映像番組制作、資料修復の技術開発、各種データベースの構築や展示活動、教育プログラムの開発実施など、82件のプロジェクトや計画事業の実施を企画調整しました。

展示に関しては、現地研究者との協働によるフォーラム型展示のコンセプトに基づき、本館展示場の中央・北アジア、アイヌの文化展示を新しく構築しました。特別展については、「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」を、企画展については「岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリャン」を実施し、研究の成果を文化資源の活用を通して広く社会に公開しました。

本館展示の新構築は開館以来の全館を挙げての大プロジェクトであり、特別展、企画展も民博で推進されてきた研究の成果を社会のなかで共有するための重要な取り組みです。これらは、展示そのものにとどまらず、収集、保存、情報化のすべての分野にまたがる複合的な事業であり、文化資源研究センターはその全体の企画調整にあたっています。

民博は大学共同利用機関であり、博物館機能を有する文化人類学・民族学の研究所であるという、世界的に見ても類のないユニークな組織です。その特徴を最大限に発揮するため、私たち文化資源研究センターは大きな職責を担っています。この場を借りて、今後とも、各方面からのご助言、ご支援をお願いする次第です。

2017年1月
文化資源研究センター長
野林厚志

目 次

はじめに	2
文化資源研究センターの活動 2015（平成27）年度	
2015年度の活動概要	5
調査・収集分野	7
資料管理分野	8
情報化分野	12
社会連携分野	16
展示分野	18
文化資源関連事業	21
資 料 編	
調査・収集分野	24
資料1. 文化資源プロジェクト	24
資料2. 文化資源計画事業	26
資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	33
資料管理分野	34
資料1. 文化資源プロジェクト	34
資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	34
情報化分野	36
資料1. 文化資源プロジェクト	36
資料2. 新規公開したデータベース	37
資料3. 情報を修正・追加したデータベース	38
資料4. 編集したビデオテープ・マルチメディア・展示記録・電子メディア （文化資源プロジェクト等）	39
資料5. 2015年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料	43
社会連携分野	48
資料1. 文化資源プロジェクト	48
資料2. 文化資源計画事業	48
資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	51
展示分野	67
資料1. 本館展示新構築（文化資源プロジェクト（機関））	67
資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）	67
資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）	68
資料4. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）	69
資料5. その他の文化資源プロジェクト	70
資料6. その他の文化資源計画事業	71
文化資源関連事業	82
資料：JICA との連携による博物館学コース 2015年度研修内容	82
スタッフ紹介（2015年度）	85

●.....●

文化資源研究センターの活動

2015(平成27)年度

●.....●

2015年度の活動概要

文化資源研究センターは、国立民族学博物館（民博）の文化資源の蓄積、管理や活用にかかわる多様な側面について、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示の分野を中心に、国内外の研究や実践活動の動向について情報を収集するとともに、先進的な基礎研究や応用研究を館内外の研究者とともに進めている。

また、文化資源研究センターは、民博の研究者が主体となって提案、実施する「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」の推進を支援している。そのためセンター教員は、文化資源運営会議のもとにおかれた「資料収集・整理等専門部会」、「資料管理専門部会」、「展示場情報提供システム専門部会」、「博物館社会連携専門部会」、「拡大展示専門部会」に所属し、当該文化資源プロジェクト等の企画調整に当たっている。また、個別のプロジェクト、館全体に関わるプロジェクトを進めるうえで、情報管理施設と連携し、学術的観点、専門的観点ならびに大学共同利用、研究の観点から、活動内容の精査、検証、これに係る助言を行っている。

それぞれの専門部会に所属する文化資源研究センター教員は以下のとおりである。

〈専門部会〉	〈センター教員〉
資料収集・整理等専門部会	信田敏宏 日高真吾（部会長）
資料管理専門部会	園田直子（部会長） 日高真吾
展示場情報提供システム専門部会	福岡正太（部会長） 山本泰則 寺村裕史
博物館社会連携専門部会	上羽陽子（部会長） 川瀬 慈
拡大展示専門部会	信田敏宏 日高真吾（部会長） 福岡正太 吉田憲司

本報告書では、活動内容を5つの分野別にわけて、各分野を担当する部会長が報告している。このほか課題別研修博物館学コース運営委員会のもとに、博物館学研修専門部会があり、本センターからのメンバーは以下のとおりである。

上羽陽子
川瀬 慈
園田直子（部会長）
林 勲男
日高真吾

文化資源研究センターは、民博のいわゆる「博物館部門」に関する大部分の業務の支援を担ってきた。本館が博物館機能をもった研究所であることを具現化するうえで不可欠な組織である。

私は2014年の4月より文化資源研究センター長の任にあたり、前年度までセンター長を務めていた朝倉敏夫教授の問題意識を引き継ぐとともに、館内の教員がより積極的に本館の博物館部門の業務に関わることを念頭においた運営を試みた。具体的には、文化資源運営会議が所掌する各部会が文化資源研究センター教員にかたよった構成にならないように配慮するとともに、館全体の自己点検報告書にも「博物館部門」に関わる将来的な課題を明記し、「博物館部門」に関する館内外の関心を高めることを意識した。

館員の間に「博物館部門」の業務に対する意識の差が生じていることは以前から指摘されてきた。一方で、個々の館員は文化資源プロジェクトを含めた文化資源関連事業を通して「博物館部門」の活動には少なからずたずさわってきた。プロジェクト制の導入は、教員の「博物館部門」離れではなく、一部の教員が「博物館部門」に共通した業務にとりくまざるを得なくなり、それが固定化されていく状況を生み出したとも言える。これは、教員だけの問題ではなく、情報管理施設を含めた機関全体の予算と人員削減による当然の結果であろう。

そうしたなかで、常設展示の新構築、特別展、企画展の開催、標本資料、映像音響資料の収集から保存、管理にいたる博物館資料の基盤構築、各種データベースの公開や資料のデジタル化やコンテンツ化を実現させてきたのは、文化資源のもつ求心力であり、民博がそれを尊重してきたからにほかならない。

第2期中期計画は2015年度で終了し、2016年度からは、第3期中期目標、計画に沿った文化資源の構築と活用について新たな枠組が求められていく可能性がある。特に、今まで以上に共同利用という観点を十分にくみいれたプロジェクト立案とその成果の検証がこれまで、文化資源研究センターならびに情報管理施設が中心となり培ってきたノウハウを生かしながら、博物館機能をもった研究所である民博の将来を見据えた対応が求められる。

(野林厚志)

調査・収集分野

調査・収集分野では、(1)標本資料・映像音響資料の収集、(2)標本資料・映像音響資料の整理・情報化、(3)標本資料・映像音響資料の利用・貸付、(4)資料の収集・整理にかかわる情報管理施設のプロジェクト的な業務に関する企画・調整を行う。2015年度の主な作業とその概要は、以下のとおりである。

1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材のプロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの点検と助言

標本資料については、海外資料702点、国内資料428点の合計1,130点を収集した。映像音響資料については、2件の映像取材を実施し、短編映像番組18点、長編映像番組10点、マルチメディア番組4点、展示記録映像7点、イベント記録映像1点、電子ガイド152点、寄贈資料等103点の合計295点を取得した。これら個別の案件については資料編「調査・収集分野 資料1. 文化資源プロジェクト」を参照されたい。

2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進

標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進を図った。標本資料については、19機関（うち、巡回展での貸し付け6機関）に対して合計1,075点の資料の貸し付け利用があった。また、映像音響資料については、館内で69件（349点）、館外で66件（329点）の利用があった。

3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討

購入・寄贈等の案件の事前確認と検討については、個々に検討と調整を進めた。それぞれの案件については資料編「調査・収集分野 資料2. 文化資源計画事業」を参照されたい。

4) 「みんぱく映像民族誌」(DVD) の配付

「みんぱく映像民族誌」(DVD) の配付については、研究用映像資料等11作品を4枚のDVDに収納した「みんぱく映像民族誌」(第18集～第21集)を作成し、全国の国公立大学、都道府県中央図書館、大阪府下の市立中央図書館等のうち、681の機関に配付した。また、収集・整理に関わる情報管理施設のプロジェクト的な業務として、標本資料・映像音響資料を適切に管理し、有効に活用するための事業を行った。詳細は資料編「調査・収集分野 資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務」を参照されたい。

(日高真吾)

資料管理分野

資料管理分野では、文化資源の調査・収集から社会還元へのフローのうち、資料管理に関わる基礎研究、開発研究、事業推進のための企画・調整を行う。2015年度は、文化資源プロジェクトとして(1)「有形文化資源の保存・管理システム構築」(機関)(提案者：園田直子)と、(2)「東日本大震災で被災した文化財の保存環境に関する調査研究4」(提案者：日高真吾)を実施した。前者は本館の資料管理に関わるものであり、後者は前者で得た知見や経験を応用、展開するものである。その他、情報管理施設のプロジェクト的な業務を行った。

(1) 文化資源プロジェクト「有形文化資源の保存・管理システム構築」

本プロジェクトでは、①有形文化資源の保存対策立案：総合的有害生物管理の考えに基づいた生物被害対策、②資料管理のための方法論策定：博物館環境の調査、収蔵庫の狭隘化対策、これら資料管理に関わる基礎研究・開発研究と事業を企画、実施、統括した。2015年度の実施内容は以下のとおりである。

1) 有形文化資源の保存対策立案

持続的なIPM(総合的有害生物管理)の活動を総括した。また、薬剤を用いない各種殺虫法の民族資料への適用を実施した。

①多機能資料保管庫

- 二酸化炭素処理 昨年度につづき、大型の船資料を対象にした包み込み二酸化炭素処理を実施し、多機能資料保管庫に配架予定の船資料の殺虫処理は仮保管庫に残した超大型船1艘(この船の最終保管場所については要検討)以外はすべて完了した。
- 低酸素濃度処理 低酸素濃度環境に資料を封入保管する実証実験に先立ち、以下の二点の課題解決に取り組んでいる。処理室の大型ファスナーバックへの投薬用の窒素(毎分200リットル)の加湿効果をあげることと、資料の封入保管で必要となる低流量の窒素(毎分10リットル程度)の調湿である。窒素を、低流量で流しても高流量で流しても適切に調湿できるような条件を検討した結果、相対湿度50%前後での調湿が可能になり、2016年度の基礎実験に向けての準備が整った。

②太陽熱による高温処理

コンテナを用いた高温処理の実験を、夏期、再開した。昨年度の実験結果をもとに保温効果をあげるよう設備を改良したところ、高温処理の条件をクリアすることができた。しかしながら、条件をクリアできるのは外気温度の条件が整う数日間に限られる。そこで、太陽熱を利用した高温処理の実用化をめざし、恒温恒湿槽でさまざまな条件(温度と維持時間の関係、1回の処理ではなく繰り返し効果の確認、木材の厚みとの関係)を検討する実験を、文化資源共同研究員(川越和四氏・木川りか氏)と進めている。

2) 資料管理のための方法論策定

①博物館環境調査

博物館環境調査（生物生息調査、温度・湿度モニタリング調査）を継続実施し、その結果を精査し、総括した。

- 生物生息調査の結果は、生物生息調査分析システムを日常的に活用して防虫対策の立案に役立てた。多機能資料保管庫で大量発生したチャタテムシ目に関しては、庫内で実施した二酸化炭素殺虫処理（25℃維持）により結露が発生したことが原因と推測している。今後、処理を実施するときには、外気温も考慮して条件設定をしたい。
- 温度・湿度モニタリングの結果は、隔週開催している空調連絡会の場において、資料保存に携わる関連部署との間で、情報と問題点の共有をはかるとともに、逐次、問題点の解決に向けた処置を相談し決定した。
- 2015年度に改修が完了した第1収蔵庫、調湿壁設置工事の対象となった特別収蔵庫（漆器）において、空気清浄度の環境調査を実施した。後者においては、臭気問題があり、現在、その解決に向け検討している。

②文化資源の保管体制の確立

展示や収蔵用の包材調査を継続実施し、データベースにまとめた。包材を選択するためのマテリアルテストとして、熱分解ガスクロマトグラフィーの稼働条件を精査した結果、現在、館内で基本的な分析ができる。

③収蔵庫の狭溢化対策

2013年度から3年計画で進めている第1収蔵庫改修（人間文化研究機構の施設整備等整備事業費）、2015年度の特別収蔵庫（漆器）の調湿壁設置工事において、保存科学の見地にたった助言をおこない、関係部署に協力した。第1収蔵庫の再配架作業は年度内に終了したが、今後、資料落下防止の措置などの改善を検討する。

④資料収集・整理等専門部会と調整のもと、映像・音響資料の保存・保管体制の現状分析と方針策定に協力した。

3) その他

資料管理に関わる各種調査を指導・統括し、その調査結果を検証した。特記事項として、2015年度内に展示照明を全LED化することが夏に急遽決定したことがあげられる。展示照明としてのLEDスポットライトの市場調査をおこない、6社23機種を対象に、25の条件下での照明実験を実施し、LEDスポットライトの現時点での性能を明らかにした。その上で、民博が必要とするLEDスポットライトの性能を確立した。この成果は「博物館におけるLED照明の現状——2015年夏 国立民族学博物館展示場での実験データから——」（『国立民族学博物館研究報告』40（4）：513－545）にとりまとめた。

上記、1)～3)で得られた知見や成果は、逐次、館における博物館の資料管理業務に反映させ、文化資源の活用と保存を目指した一連の活動を連携させた。

(2) 文化資源プロジェクト「東日本大震災で被災した文化財の保存環境に関する調査研究4」

本プロジェクトは、過去の3年度のプロジェクトを引き継ぎ、新潟県村上市奥三面歴史交流館収蔵庫と、宮城県気仙沼市旧月立中学校の文化財一時収蔵庫について、これまでと同様の調査（温度湿度の測定、光の測定、有機酸等の空気環境調査、生物生息調査、塵埃調査、浮遊菌調査等）を実施し、その効果を検証した。特に今年度は被災文化財を収蔵している旧月立中学校教室に調湿壁を設置し、1年を経過したことから、その効果を検証することに重点を置いた。現在、調湿壁の効果については廊下側からの影響が強く、さらなる手段として防湿シートの導入や除湿機の導入をおこない、その効果の検証を進めた。この成果については、2015年10月と11月にそれぞれ現地において、関係者で研究会を開催し、その効果について判断、次年度以降の活動を計画した。

新潟県村上市奥三面歴史交流館収蔵庫と、宮城県気仙沼市旧月立中学校の文化財一時収蔵庫の両施設とも、IPM活動の本格的な導入により、生物被害を及ぼす害虫やカビに対して一定の抑制機能を持たせることができた。また、旧月立中学校に設置した調湿壁の効果については、一定の効果が得られたものの、夏場の高湿度対策について更なる検証が必要という課題も見出せた。来年度は、夏場の本格的な除湿機の導入を視野に入れ、モニタリング方法の検討を進めている。

(3) 情報管理施設のプロジェクト的な業務

情報管理施設のプロジェクト的な業務としては、1) 常設展示場新構築撤去資料の点検・クリーニング・再配架及びデータ整理作業、2) 第3収蔵庫収蔵資料の配架見直し及び再配架作業、3) 標本資料の補修・保存処理を実施した。各業務の詳細については資料編「資料管理分野 資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務」を参照されたい。

(4) 文化資源プロジェクトに関する研究業績

1) 「有形文化資源の保存・管理システム構築」に関するもの

- 2015 「博物館におけるLED照明の現状——2015年夏 国立民族学博物館展示場での実験データから——」園田直子、日高真吾、末森薫、奥村泰之、河村友佳子、橋本沙知、和高智美『国立民族学博物館研究報告』40(4):513-545、大阪：国立民族学博物館。(査読有)
- 2015 Sonoda,N. Museum Environment Control for Sustainable Collection Management. In Sonoda,N., Hirai,K., and Jarunee Incherdchai (eds.) *Asian Museums and Museology 2014 - International Workshop on Museology in Thailand* — (Senri Ethnological Studies 129), pp.27-35, Osaka: National Museum of Ethnology (査読)
- 2015「博物館環境データ（生物生息調査、温度・湿度モニタリング）分析システム・スモールパッケージの開発」園田直子『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』報告書 P38-47 東京文化財研究所 12月
- 2015「IPM実現のための予算獲得について——国立民族学博物館の事例から——」日高真吾『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』報告書 P48-54 東京文化財研究所 12月
- 2015「国立民族学博物館に新設した多機能保管庫の運用事例——大型民族資料の保管を目指して」園田直子、日高真吾、末森薫、西澤昌樹、玉置春佳、飯島善明（国立民族学博物館）、和高智美（文化創造巧芸）、河村友佳子、橋本沙知（元興寺文化財研究所）『文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集』P94-95
- 2015「国立民族学博物館における大規模な殺虫処理」日高真吾、園田直子、末森薫、西澤昌樹、

玉置春佳、飯島善明（国立民族学博物館）、和高智美（文化創造巧芸）、河村友佳子、橋本沙知（元興寺文化財研究所）、川越和四（環境文化創造研究所）『文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集』P96－97

2)「東日本大震災で被災した文化財の保存環境に関する調査研究4」に関するもの

- 2016「文化財等レスキュー事業の意義を考える——被災文化財から文化財へ」橋本裕之、林勲男編『災害文化の継承と創造』P238－250 臨川書店 京都 2016年2月
- 2015「東日本大震災で被災した民俗文化財の脱塩処理に関する一考察」『民具研究』第152号 P99－114日本民具学会11月（査読有）
- 2015「東日本大震災の被災文化財の一時保管場所の環境改善——気仙沼市旧月立中学校の事例から」日高真吾、園田直子、末森薫（国立民族学博物館）、和高智美（文化創造巧芸）、河村友佳子、橋本沙知（元興寺文化財研究所）、多田隈卓司、左治木悠子（金剛）、川越和四（環境文化創造研究所）、福田尚（イカリ消毒）、小谷竜介（東北歴史博物館）、幡野寛治（気仙沼市教育委員会）『文化財保存修復学会第37階大会研究発表要旨集』P32－33
- 2015「大規模災害における文化財レスキュー事業に関する一考察——東日本大震災の活動から振り返る——」『国立民族学博物館研究報告40巻第1号』P1－P52 国立民族学博物館 6月（査読有）

（園田直子）

情報化分野

情報化分野では、(1)資料の整理・情報化とデータベース作成・公開や、(2)ビデオテープ・電子ガイドをはじめ展示場における情報提供に関わる、文化資源プロジェクト・文化資源計画事業（以下、プロジェクト・事業）の支援を行っている。これらは、文化資源運営会議の資料収集・整理等専門部会、展示場情報提供システム専門部会と連携し、実際の作業にあたる情報課・企画課の協力のもとに進められる。

（１）資料の整理・情報化とデータベースの作成

2015年度は、文化資源プロジェクトに採択された7つのプロジェクトについて支援を行った。情報化には、資料の整理、基本情報をテキストデータとして採録、写真やスライド等の資料のデジタル化などの作業が含まれている。さらに写真資料では、著作権の調査と譲渡手続き、肖像権と一般公開の可否の検討が必要である。詳細については、資料編「情報化分野 資料1. 文化資源プロジェクト」を参照されたい。

また、個々のプロジェクト・事業として必ずしも明確化されていたわけではないが、民博の情報化に関するものとして以下のような活動の支援を行った。

1) 標本資料情報の点検と修正、公開

標本資料情報に含まれる個人情報进行处理し、処理済みの情報を館外公開しているデータベースに随時追加した。また、各標本資料に付随する画像を点検し、画像の向きや表示順序、データベースでの使用/不使用、画像のアクセスレベルの修正を行った。

2) データベースの情報修正・追加

すでに公開しているデータベースについて、情報の修正・追加を行った。詳細については資料編「情報化分野 資料3. 情報を修正・追加したデータベース」を参照されたい。

3) 統合検索システムとの連携

人間文化研究機構が運用する「統合検索システム（nihuINT）」（機構全機関のデータベースを横断検索するシステム）に提供している民博のデータベースについて、民博の原データベース更新に合わせて、対応する nihuINT のデータベースも更新した。

また、2015年度末の民博の図書システム更新にともない、図書・雑誌情報の抽出と nihuINT へのアップロード、共通メタデータへの変換方法を見直し、より洗練されたものに改良した。

今年度は、2つの写真データベースが公開された（資料編「情報化分野 資料2. 新規公開したデータベース」参照）。このうち、「京都大学学術調査隊写真コレクション」は、「ネパール写真」（2006年4月館外公開）以来10年ぶりに館外公開した写真データベースである。写真資料の公開には、資料の整理やデジタル化に加えて、撮影者や著作権継承者との権利処理、肖像権の配慮など、地道な作業が必要であり、このデータベースではそのために10年を費やしている。今回その努力が結実したといえる。

あいかわらず、標本資料の情報化が滞っている。標本資料の情報化について人の体制も含めた抜本的な見直しが必要であろう。

来年度からは民博に情報運営会議が発足し、中期計画2期にわたって文化資源運営会議が実施してきた情報化分野の文化資源プロジェクトは、情報運営会議が担当すると聞いている。しかし、情報化の対象の多くはそれ自体が文化資源であるため、今後は文化資源運営会議や文化資源研究センターは情報運営会議と密接に連携していくことが不可欠である。従来の文化資源プロジェクトの問題点を改善して、民博にとってより有用な情報資源が作成されることを期待する。

民博として今後どのような情報を作成し提供していくことが大学共同利用機関として学界や社会に貢献することになるのか、長期の総合的な展望と戦略をたてることが文化資源研究センター創設以来の課題であったが、来年度以降はこれも情報運営会議の検討事項にもなるのであろう。

(山本泰則)

(2) ビデオテーク・電子ガイド等による展示場での情報提供

展示場における情報提供は、ビデオテーク、みんなく電子ガイドのほか、2011年度に新設された探究ひろばなどで行われてきた。また、いくつかの展示場では、情報提供のための端末が設置されている。このうち、ビデオテークとみんなく電子ガイドについては、文化資源研究センター映像音響タスクフォースが中心となり、展示場情報提供システム専門部会と連携して、情報課のサポートのもとで、システムの運用と維持管理における諸問題の検討、本館展示の新構築に伴う新コンテンツの製作、次世代システムの検討と実験を行った。

1) ビデオテーク関連

ビデオテークは、2012年3月の更新以来4年目となり更新時期が近づいているが、今のところ順調に運用を続けている。2015年度は156,341人の本館展示入場者があり、のべ56,588回の番組リクエストがあった(図1)。2015年度は新しく30件のビデオテーク番組を公開した。ビデオテークのシステムおよび運用の改善を図るため、利用者からの問い合わせや苦情の報告をチェックし、インフォメーション・スタッフとの意見・情報の交換をおこなった。その結果明らかになった課題のうち、すぐに対応が可能なものについて、次のような対応をおこなった。

1. 「ビデオテークとは何か」という問い合わせが多いことに鑑み、ビデオテークとその使い方を視覚的に紹介するビデオ番組を制作し、イントロダクション部分のブースにて公開した。
2. タッチパネルの操作にまごつく利用者が多いことに鑑み、ビデオテークブースの一部に新しいタッチパネルドライバを導入し、来館者の反応を調査した。この新ドライバに関して、ビデオテーク利用者から特に苦情が寄せられたという報告はなく、おおむね好評と考えられる。今後は順次、ビデオテーク端末をこの新ドライバに更新していく予定である。さらに改善と更新に向け情報を収集するため、ビデオテークに関するアンケートを作成して実施している。その結果は2016年度以降、集計し分析を加える予定である。その他に、ビデオテーク番組のさらなる活用を進めるため、館内外での利用を想定した「みんなくデジタルビューア」を試作して館内で試験公開をおこなった。将来的には、標本資料情報等と連携した情報提供の手段とすることを目指している。

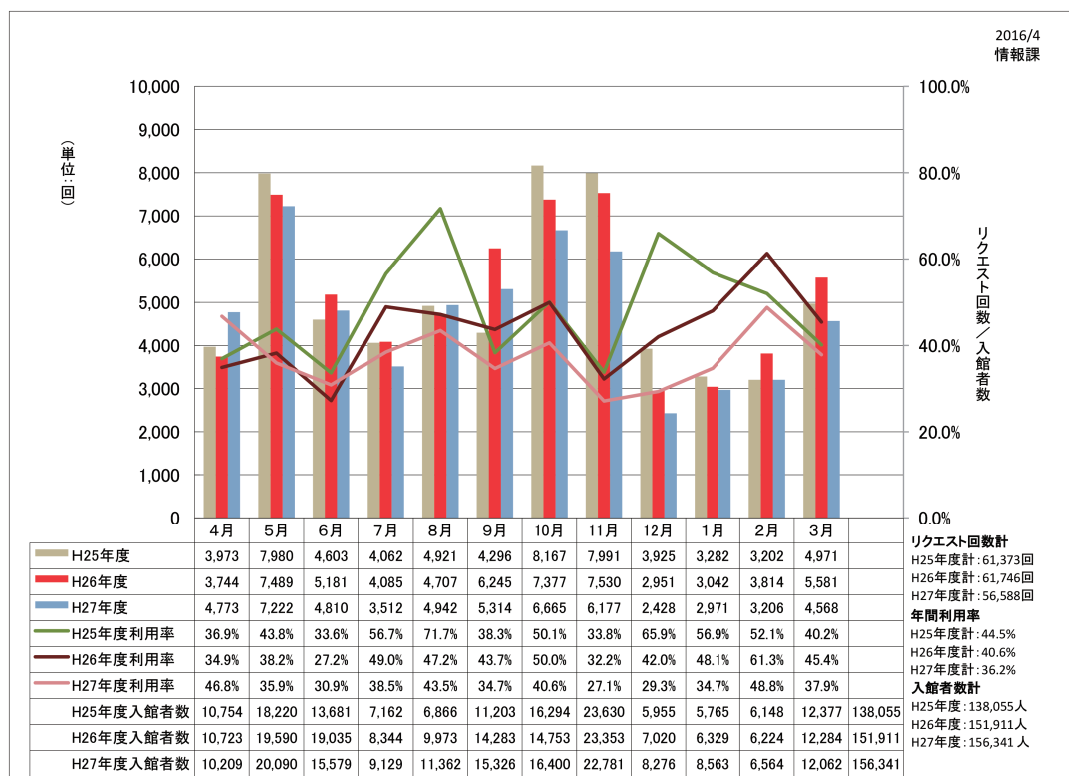


図1 ビデオテーク利用統計（リクエスト回数）

2) みんなく電子ガイド関連

現行のみんなく電子ガイドは、2007年9月から稼働を開始した。順調に運用が続けているものの、現行端末本体およびメーカー純正バッテリーはすでに生産中止となっており、更新に向けた次世代みんなく電子ガイドの検討が急務となっている。2015年度のみんなく電子ガイドの貸出件数は9,201回であり、来館者の5.9%に利用された（図2）。また本館展示において、南アジア展示および東南アジア展示の新構築が行われたことにともない、同展示に関わる37本の新番組制作を行った。それぞれの番組は、日本語版に加えて、英語・韓国語・中国語版を製作した。また、みんなく電子ガイドをより広く利用してもらえるようにするために、字幕を付したコンテンツの試作を進めたほか、iBeaconを用いて展示場における利用者の位置に応じたコンテンツを提供する実験をおこなった。

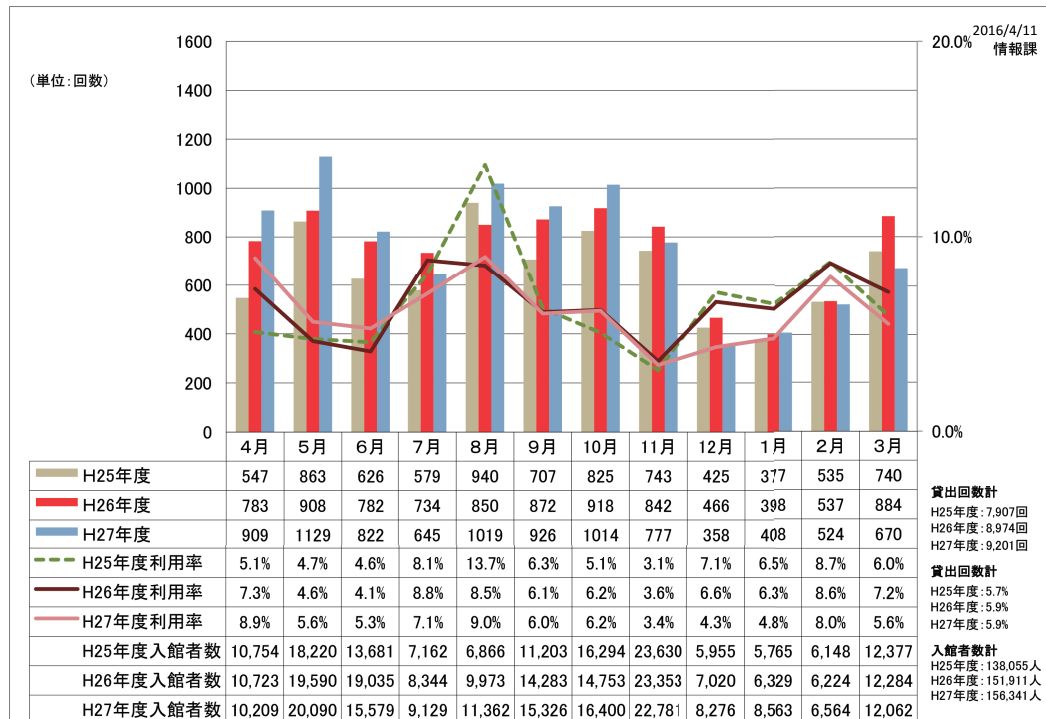


図2 みんな電子ガイド利用統計(貸出回数)

(福岡正太)

社会連携分野

社会連携分野では、国内外の博物館や大学等との学術連携ならびに、来館者をはじめとした一般利用者との社会連携、教員等の学校関係者との博学連携を通して、民博における文化資源を系統的、有機的に幅広く共同利用していくためのネットワークづくり、手法開発、試行的実践に取り組んできた。具体的には、館内における博物館社会連携専門部会、博物館学集中研修専門部会、企画課社会連携グループ等と連携を取りながら、館内教員が提案した文化資源プロジェクトと、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、研究成果の普及を目的とした文化資源計画事業を実施した。

(1) 文化資源プロジェクト

1) カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

当館所蔵のアイヌの標本資料の保管と伝承を祈るカムイノミを行い、併せてアイヌ古式舞踊の演舞を実施した。また、工芸品製作の実演と解説をする「アイヌ工芸 in みんなく」を開催し、より深くアイヌ文化に親しむ機会を提供した。

2) みんなくくの改訂版制作

学校機関や各種社会教育施設を対象に貸出を行う学習キット「みんなくく」は、パック制作後10年を耐用年数とし、また、時代に即した内容にするためにも改訂を行う必要がある。2015年度は「アンデスの玉手箱（2002年度制作）」「インドのサリーとクルター（2002年度制作）」を改訂した。

(2) 文化資源計画事業

1) ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップの実施、ならびに展示新構築にともなうワークシートの更新作業やワークシート新規作成に向けた調査などを実施した。ワークショップ等の実施詳細については資料編「社会連携分野 資料2. 文化資源計画事業 1. ワークショップの実施ならびにワークシートの運用」を参照されたい。

2) ボランティア活動支援

民博におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体であるMMP（みんなくミュージアムパートナーズ）の活動支援を行なった。

MMPは、民博におけるボランティア活動を継続的に行なっており、当館にとって無くてはならない市民活動の場となっている。また、MMPの活動報告会を通じた交流も継続的に行なっており、当館と市民をつなぐ結節点の一つとしての役割を果たしている。

本年度は「躍動する南アジアー春から秋のみんなくフォーラム2015関連ワークショップ『はじめの一步 やってみようミラー刺繍』」の実施を期に結成されたチーム・プラカーシュが6～8月の毎週2回のワークショップをエントランスで開催し、多くの来館者にミラー刺繍を身

近に感じてもらう機会を提供した。フォーラム期間終了後も研修の場を設けるなど自己研鑽を続け、意欲的に活動が続いている。

従来通りの活動として、来館者からの要望に応じて行なう視覚障がい者に対する展示場案内や、学校団体に対する教育プログラム「わくわく体験in みんなぱく」、一般来館者向けのものづくりワークショップを実施するほか、北大阪ミュージアムメッセ、ナレッジキャピタル・ワークショップフェスや神戸市立須磨海浜水族園でのボランティア交流会など他の博物館・施設との交流の機会にも積極的に参加した。視覚障がい者に対する展示場案内に活用する資料を新たに購入するなど、館内での活動も来館者により充実した時間を提供できるよう工夫を重ねている。ボランティア活動支援の詳細については資料編「社会連携分野 資料2. 文化資源計画事業 2. ボランティア活動支援」を参照されたい。

(3) 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1) みんなぱく運用・保守

学校機関や各種社会教育施設を対象に貸出を行う学習キット「みんなぱく」は、企画課の管理のもとに運用・保守が行われている。2015年度は、147の学校や社会教育施設に、延べ201回の貸出を行った。また、貸出先での紛失や破損に伴う補修、老朽化した資料の交換等を行った。みんなぱくの運用・保守に関する詳細については資料編「社会連携分野 資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務 1. みんなぱく運用・保守」を参照されたい。

(上羽陽子)

展示分野

文化資源研究センターにおいては、センター所属の教員が展示専門部会の部会長、その下部組織の特別展・企画展ワーキング・グループの主要メンバー、ならびに本館展示新構築総括チームのリーダー、展示場情報提供システム専門部会の部会長を務め、さらにその他のセンター教員もそれらの組織のメンバーとして活動する形で、民博の展示活動の企画・調整・支援に当たってきた。以下、(1)本館展示、(2)特別展、(3)企画展、(4)巡回展、(5)その他のそれぞれの分野に分けて、2015年度の活動を報告する。

(1) 本館展示

2015年度は本館展示新構築の第8年次となり、全面新構築の最終年次にあたる。本年度の本館展示新構築に関しては、「中央・北アジア展示及びアイヌの文化展示の新構築」、「南アジア展示及び東南アジア展示用電子ガイドコンテンツの製作」、「新構築した中国地域の文化展示場の部分改修」、「新構築した「朝鮮半島の文化」展示の部分改修」、「日本の文化展示「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニホン」の部分改修」の各プロジェクトが実施された。

「中央・北アジア展示及びアイヌの文化展示の新構築」では、古くから東西南北の文化交流の通路であり、近くは20世紀最大の実験といわれた社会主義を経験したこの地域の伝統と現代を、生業、生活文化、宗教と祝祭に着目した展示を構築した。また、東アジア展示のうちのアイヌ文化の展示においては、我が国の「先住民族」であるアイヌの人々の伝統と現代についての展示を、展示される文化を担う人々との協力を通じて実現し、新しいアイヌ文化像を構築した。

「南アジア展示及び東南アジア展示用電子ガイドコンテンツの製作」においては、新構築に伴い、新たに必要となった電子ガイド用コンテンツ（日本語、英語、中国語、韓国語）を37本追加制作し、既存の映像と合わせて72本のコンテンツを公開した。また、番号プレートを展示場に設置し来館者へのサービスを開始した。

「新構築した中国地域の文化展示場の部分改修」では、2013年度末に新構築した展示内容のうち、保存科学的観点から入れ替えが必要とされていた民族楽器資料、複製を展示していた工芸資料、定期的に入れ替えが計画されていた図書資料（宗教と文字、継承される伝統中国）について、同種の展示可能な実物資料を展示することで、研究資料を適切に管理し、来館者にさらに多くの情報を提供できるように体制を整えた。展示手法についても、民族楽器セクションでは写真パネルの一部入れ替え、資料の演示位置の調整、照明の追加を行い、マッピングシステムでは、情報追加の円滑化を目指すシステムの改善を実施、みんぱくチャイナタウンの体験コーナーでは、劣化が見られた資料を新規購入した。その他、展示資料のキャプションや解説パネルの一部の表記を修正し、全体として一貫性のある、より適切な資料情報を来館者に提供できるようにした。今回の部分改修により、新構築で目指した展示のコンセプトをよりわかりやすく、明確に来館者に伝え、展示を通して中国地域の文化に対する親しみや理解を一段と深めることが可能になった。

「新構築した「朝鮮半島の文化」展示の部分改修」では、2013年度に行った、観覧者を想定した展示評価アンケート、および同年4月度から9月度の来館者アンケートの総計結果をふまえ、展示照明の改善や、書籍コーナーの再編、解説パネルの増設・修正を行った。また、イントロダクションの改修では、展示案内映像について、従来の日本語版・韓国語版に加えて英語版・中国語版も利用できるようにしたが、この点について、一般観覧者および訪問研究者から非常に好評

を得ている。より多様な一般観覧者が利用できるようにという配慮から計画したものであるが、このように研究広報としての成果もえることが出来たと評価できる。

「日本の文化展示「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニホン」の部分改修」では、まず「沖縄の暮らし」セクションにおいて、竹富島の民家模型後ろにある写真パネルを拡大表示し、より来館者の見やすい写真パネルを展示した。また、「沖縄の暮らし」セクションの食文化紹介コーナー、「多みんぞくニホン」のエスニックショップの紹介コーナーでは、来館者が触ることで、袋への穴あき等の損傷事故が多いことから、アクリル板による天板の設置や、ネットシートをかけるなどといった、来館者がふれることを未然に緩衝させるための展示方法の工夫を試みた。日本の文化展示については、このプロジェクトをもって新構築の完成とすることができた。本館展示の新構築の詳細については、資料編「展示分野 資料1. 本館展示新構築（文化資源プロジェクト（機関）」を参照されたい。

加えて、今年度は、言語展示場の部分改修を実施し、世界12種の言語による手話のビデオテープを製作・公開した。

（2）特別展

2015年度は、特別展として「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」と、「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界——」の二つの展示会を開催した。

このうち、「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」は、日韓国交正常化50周年を記念し、2015年8月27日から11月10日まで、韓国国立民俗博物館と共同で開催したものである。「食」をテーマとした展示というと、従来は模型と映像を用いた展示手法に頼るものが多かったが、今回は情報工学、情報メディア、ライブラリー、アーカイブなど、多角的な技法を用い、新しい展示に挑戦するものとなった。本特別展では、大阪工業大学、京都造形芸術大学、韓国総合芸術学校の協力を得て、若い力による創造性が発揮された新たな「食」の展示が実施された。また、実際に「味わう」体験をすることができるワークショップを実施するなど、五感のすべてで「食」文化を体験できるものとした。

「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界——」は、北海道博物館の開館記念特別展示として開催され（2015年9月5日～11月8日）、国立歴史民俗博物館でも特集展示として開催されたものである（2015年12月15日～2016年2月7日）。この特別展は、蠣崎波響筆「夷酋列像」の実像を明らかにするとともに、この絵画が描かれた18世紀の蝦夷地とその国際性を広く紹介する内容であった。北海道博物館の会期中には5万人を超える来館者が訪れ、また国立歴史民俗博物館ではNHKによる番組制作も行われ、「日曜美術館」をはじめとして多くのマスメディアで報道されるなど、大変な好評を博した。当館では、2016年2月25日から5月10日まで開催された。これら特別展の詳細については、資料編「展示分野 資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）」を参照されたい。

（3）企画展

民博では、特別展より規模の小さい、期間を限った展示を実施する場として、本館展示場の中に企画展示場が設けられている（展示面積約290㎡、大学共同利用型展示場）。2015年度には、この展示場を用いて、企画展「岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリャン」が開催された（会期：2015年5月21日～7月21日）。本企画展は、ロシア連邦ハバロ

フスク地方のアムール河の河畔に残る古代の岩面画と、それを聖地、聖なるものとして今でも守り続ける先住民族ナーンイとの関わりを、岩面画の拓本とナーンイの民族資料とともに紹介するものである。また、2015年9月19日から10月25日までは新潟県立歴史博物館にて、10月31日から2016年1月11日までは横浜ユーラシア文化館にて、巡回展としても開催した。日本ではほとんど知られてこなかった極東ロシアの文化遺産（岩面画）と先住民族の文化（ナーンイの文化）を、両者を連動させて紹介することで、学術的にはロシアの先住民族の社会・文化研究に新しい光を当てることができたといえよう。詳細については、資料編「展示分野 資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）」を参照されたい。

（4）巡回展

2015年度は、巡回展として「イメージの力 ― 国立民族学博物館コレクションにさぐる」が開催された。本巡回展は、国立新美術館では2014年2月～6月、本館では2014年9月～12月に特別展として開催した展示を、2015年6月27日から8月23日まで、郡山市立美術館（福島県）にて開催したものである。この巡回展は、国立新美術館・国立民族学博物館での展示作品のなかから、世界各地の神像や仮面をはじめ、テキスタイルや玩具など、約360点を改めて選出し、人びとが作り出したイメージの造形性や機能に着目して展示をおこなった。期間中、郡山市内のみならず、東北一円から計8,447人の観覧者を迎えた。また本展示は、2016年度には、香川県立ミュージアムへの巡回も予定されている。詳細については、資料編「展示分野 資料4. 巡回展（文化資源プロジェクト）」を参照されたい。

（5）展示技術に関する研究活動

以上のほか、文化資源プロジェクトとしては「ビデオテークと標本資料関連データベースの連携と活用」、「みんなく電子ガイドのユニバーサル対応コンテンツの試作」、「屋内位置情報技術を用いた統合電子ガイドの研究と開発」、「次世代ビデオテーク更新案の作成」、「次世代ユニバーサルミュージアム展示空間における多様な来館者の知覚鑑賞開発と評価研究」等の事業が行われた。

文化資源計画事業による展示活動

文化資源計画事業として、2015年10月17日から11月23日まで、館外企画展「武器をアートに ― モザンビークにおける平和構築」を、東京藝術大学大学美術館にて開催した。本展示は、民博の所蔵品と、長くモザンビークにおける平和構築を支援してきた日本国内のNPO えひめグローバルネットワークの所蔵品をあわせ、民博で開催した企画展「武器をアートに ― モザンビークにおける平和構築」（会期：2013年7月11日（木）～11月5日（火））と同じ作品・映像を用いて展示をおこなったものである。

また、2015年12月10日から2016年1月26日まで、「年末年始展示イベント『さる』」を実施した。本展示イベントは、2016年の干支である「さる」をテーマに、本館所蔵の資料を用いて展示場の構成を行い、教職員の研修を実施することとあわせて、年末年始期の来館者に季節感と、人間と動物をめぐるさまざまな地域文化の様相を感じてもらうことを目的とするものである。

詳細については、「展示分野 資料6. その他の文化資源計画事業」を参照されたい。

（日高真吾）

文化資源関連事業

【JICA との連携による博物館学コース】

民博は、2004年度以降、独立行政法人国際協力機構（JICA）から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、「博物館学コース」を企画・運営している。2004～2011年度までは「博物館学集中コース」として、博物館運営に必要な、収集・整理・保存・展示・教育に関する理論と実践的技術の研修を実施し、博物館を通して途上国各国の文化振興に積極的に貢献できる人材育成につとめた。2012年度からは、博物館資料の管理について保安や防災のカリキュラムを強化するとともに、博物館の運営についても自らが立案し、実践・普及できるように研修項目を増加して、観光関連分野との連携を視野に入れるなど研修内容を充実させた。名称も「博物館学」コースと改めた。さらには、2015年度から「博物館とコミュニティ開発」とコースを改組・発展させ、博物館が地域社会に果たすコミュニティ開発・社会連携等の役割についても学ぶことができる研修内容としている。

研修は、大きく、博物館専門家としての知識や技術の習得、日本の博物館の経験や知識の共有、そして博物館専門家同士が、国を越えて、自由に経験や知識、問題点や課題の検討などができる、そうした「フォーラムとしての場」を設けることをねらいにしている。これら一連の「博物館学コース」は、博物館学を包括的に取り扱う研修となっていて、世界的にも類を見ない特徴のあるコースであり、研修参加者からの評価は高い。今後とも内容の充実をはかりながら、組織的に継続していきたい。

開設以降、研修には、毎年、世界の国や地域から約10名を受け入れ、研修期間は約3ヶ月間におよぶ。受け入れ側の講師は、合計70名ほどで対応している。

2015年度は、9月28日の来日、オリエンテーション、健康診断などの後、共通プログラムと個別研修プログラムを含めた本コースが、10月1日から12月18日にかけて実施された。コースの参加資格は、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を持ち、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動での実務経験を3年以上有し、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えている者である。これらの条件を満たした、以下の8カ国から計10名が参加した。

アルメニア	Mr. GHUKASYAN Vahag	マリウム&エラスヒ・アスラマジアン姉妹ギャラリー
エジプト	Mr. ELSAYED Abdelrahman Othman Masoud	国立エジプト文明博物館
エジプト	Mr. MOHAMED Emam Abdallah Emam	大エジプト博物館保存修復センター
セーシェル	Ms. BARREAU Nicole Sabrina	国立博物館
パレスチナ	Ms. ALAMA Elham Hussien	ヒシャムパレス博物館
フィジー	Ms. KORO Vika Naiovi	フィジー博物館
フィジー	Mr. TUTANI Jason	フィジーナショナル・トラスト
ペルー	Ms. CARRION ALBAN Rosangela Yanina	パチャカマック遺跡博物館
ミャンマー	Ms. Aye Thidar Oo	ヤンゴン国立博物館

【国際的ネットワーク】

「博物館学」コース（2012～2014年度実施）と、その前身である「博物館学集中コース」（2004～2011年度、8回実施）、さらにその前進となる JICA「博物館技術（収集・保存・展示）研修コース」（1994～2003年度、10回実施）の修了者は、JICA 研修参加者200名、民博の外来研究員26名、あわせて57の国・地域から226名に達している。民博にとって貴重な財産といえる海外の博物館とのネットワークが、2015年度の研修によりさらに充実した。

なお、本コースのニュース・レターとして2016年1月に発行した下記の刊行物に、より詳細な記録が掲載されている。

Steering Committee International Museology Course, National Museum of Ethnology, Japan Museum Co-operation 2015, Newsletter of the Museums and Community Development Course

（園田直子・国際研修博物館学コース運営委員長）



資 料 編



調査・収集分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：ネパール関連のビデオテーク番組の制作

提 案 者：南真木人（文化資源研究センター）

事業の概要：2013年度に撮影した素材を用いて、ビデオテーク番組1本および研究用映像（長編番組）1本を制作した。また、2016年1月に2週間ネパールにおいて映像取材を行い、楽師カースト・ガンダルバの社会変化およびボカラ市のバイラヴ仮面舞踊に関する映像を撮影し収集した。

2. プロジェクト名：在日コリアン音楽の現状に関する映像取材

提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

事業の概要：在日コリアンの音楽活動に関する映像取材を、彼らの集住地域（大阪市生野区、東京都豊島区）と活動地域（大阪府堺市、東京都小平市）において、計7回（11日間）実施した。

3. プロジェクト名：日本各地の軽業系民俗芸能に関する映像取材

提 案 者：笹原亮二（民族文化研究部）

事業の概要：2016年9月開催の特別展「見世物大博覧会」における軽業のコーナーにおいて公開を予定している全国各地の軽業系民俗芸能のうち、継獅子（愛媛県今治市）・くも舞（秋田県潟上市・男鹿市）・つく舞（茨城県竜ヶ崎市）・囃子曲持（神奈川県川崎市）梯子虎舞（岩手県大船渡市）に関する映像取材を実施した。

4. プロジェクト名：中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集

提 案 者：横山廣子（民族社会研究部）

事業の概要：本館の文化資源プロジェクトでこれまでに取材した映像素材を編集し、中国雲南省の少数民族に関するビデオテーク番組を製作する2ヵ年計画の2年目であり、今年度は、短編3本を製作した。

5. プロジェクト名：言語展示場の部分改修に伴う手話言語に関するビデオテーク番組製作

提 案 者：菊澤律子（先端人類科学研究部）

事業の概要：手話言語による語りやお話の映像、世界12手話言語の単語が比較できるデータをビデオテークの番組として製作し、公開した。言語展示場には日本手話三方言による「ももたろう」の出だしの部分を展示してあるが、それぞれの全編、および他の語りについては、時間をかけてゆっくり観覧してもらえるように、ビデオテークの番組として作成した。

6. プロジェクト名：ビデオテーク番組「フィリピン北部バルバラサン村の音楽とくらし」（仮題）
の編集
提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
事 業 の 概 要：2008年度のフィリピン・ルソン島山間地域に住むカリングの音楽に関する映像素材に基づき、ビデオテーク番組「フィリピン北部バルバラサン村の音楽とくらし」を制作した。
7. プロジェクト名：研究公演「アリラン峠を越えていく ― 在日コリアン音楽の今」に基づいたマルチメディア番組の製作
提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
事 業 の 概 要：2014年7月20日に民博講堂で開催した研究公演「アリラン峠を越えていく ― 在日コリアン音楽の今」の映像記録素材を編集し、マルチメディア番組（日本語版、英語版）を制作した。
8. プロジェクト名：和太鼓の製作プロセスに関する長編番組の製作
提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
事 業 の 概 要：2014年度に文化資源プロジェクトとして実施した和太鼓の製作に関する映像取材で収集した素材をもとに長編番組を編集した。
9. プロジェクト名：カンボジアの大型影絵芝居スバエク・トム全7夜の上演記録映像（英語字幕版）の制作
提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）
事 業 の 概 要：カンボジアの音楽研究の第一人者であるサムアン・サム教授（パンニャシヤストラ大学）と共同で、大型影絵芝居スバエク・トム全7夜上演記録映像に英語字幕を付した番組を制作した。
10. プロジェクト名：「ラージャスターン州の生活・信仰・儀礼」に関する映像資料の編集と現地語版の作成
提 案 者：三尾稔（研究戦略センター）
事 業 の 概 要：ラージャスターン州の生活、信仰、儀礼に関する本館所蔵映像音響資料のヒンディー語版の製作を行った。また、既存のマルチメディア・コンテンツ番組「ラージャスターン州メーワール地方のくらしと信仰」の充実を図り、その解説画面等の加筆を行った。
11. プロジェクト名：展示記録映像のあり方に関する実践的研究
提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）
事 業 の 概 要：昨年度までに確立した、展示記録パノラマ映像として必要な撮影ポイントの設定、及びコンピュータでの効率的な展示場再現が可能な画像の製作方法に習いパノラマムービーを製作した。展示資料の画像や詳細データを効率よく配置することにより Web 上で展示空間を違和感なく閲覧できるコ

ンテンツとなった。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業

提 案 者：朝倉敏夫（民族社会研究部）

事業の概要：2015年度は、4年計画の3年次として、本館「朝鮮半島の文化」に関する映像資料収集の新たなシステムを構築するため、韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき協議を行い、韓国学中央研究院大学、中央大学、ソウル芸術大学で映像人類学を専攻する学生たち3チームに研修を受けさせ、2016年3月までに作品を制作、提出させた。今後、本館においてビデオテープ番組として編集する予定である。

2. プロジェクト名：標本資料「中国女性用衣装資料」の寄贈受入

提 案 者：横山廣子（民族社会研究部）

事業の概要：中国青海省西寧市互助土族自治县に居住するトゥー（土）族の女性の衣装と付属品の寄贈を受け入れた。この衣装は、1992年に現民博名誉教授が現地調査をおこなった際、県政府の民族宗教局より寄贈されたもので、現地の典型的な民族衣装である。

3. プロジェクト名：標本資料「中国青海省チベット仏教の仏像写真、カタ」の寄贈受入

提 案 者：横山廣子（民族社会研究部）

事業の概要：中国青海省のチベット仏教信者が持仏入れ容器に入れる小型のカード状仏像写真と「カタ（礼布）」と呼ばれる白い布の寄贈を受け入れた。

4. プロジェクト名：標本資料「中国地域少数民族生活資料」の寄贈受入

提 案 者：塚田誠之（研究戦略センター）

事業の概要：申請者である塚田が、長年の華南民族研究に基づき、標本資料の充実を図るため、「中国地域少数民族生活資料」を寄贈した。なお、「ヤオ族（「盤瑤」）女性用衣服」については、故竹村卓二本館名誉教授が、広東省乳源瑶族自治县を訪問した際に現地の政府から寄贈を受け、その後塚田が保管を任せられたものである。

5. プロジェクト名：標本資料「ロシアクロテン毛皮資料」の寄贈受入

提 案 者：佐々木史郎（先端人類科学研究部）

事業の概要：申請者である佐々木が、2003年12月の調査で収集したクロテンの毛皮を寄贈した。日本では、現物がほとんど知られていないクロテンという動物の

毛皮を展示場で広く公開することで、極東地域の文化理解を促進することに意義がある。

6. プロジェクト名：「タイ祭祀用人形」の寄贈受入

提 案 者：平井京之介（民族社会研究部）

事業の概要：本事業は、チェンマイ国立博物館のニタヤー・カノックモンコン館長がタイ国チェンマイで入手した資料を、標本資料として寄贈受入をおこなったものである。

7. プロジェクト名：標本資料「アメリカ南西部先住民ホピ製木彫人形資料」の寄贈受入

提 案 者：伊藤敦規（文化資源研究センター）

事業の概要：米国南西部先住民ホピが制作した2体の木彫人形を民博に寄贈することで、既存の約280体の同様の資料との比較研究の対象としたものである。

8. プロジェクト名：標本資料「北海道アイヌの儀礼具等資料」の寄贈受入

提 案 者：齋藤玲子（民族文化研究部）

事業の概要：山本文利氏（釧路市阿寒町）からアイヌ関係資料を収集した際、儀礼具の一部や完形でないものなど、購入品としては評価額をつけがたいものの、研究上は有用であり、コレクションとして一括して保管すべきものが多数あったため、寄贈を受け入れた。

9. プロジェクト名：標本資料「グリーンランドの楽器資料」の寄贈受入

提 案 者：岸上伸啓（研究戦略センター）

事業の概要：2014年度の秋季企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」を開催するために国立グリーンランド博物館・文書館が展示に使用したカラーヒット民族（グリーンランド・イヌイット）制作のドラムとバチの寄贈を受け入れた。

10. プロジェクト名：標本資料「インド撥弦楽器（シタール）、土人形、コイン等」の寄贈受入

提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

事業の概要：米代慶子氏より寄贈されたインド関連資料（弦楽器シタール、土人形、古銭）を受け入れた。

11. プロジェクト名：標本資料「フィンランド楽器資料」の寄贈受入

提 案 者：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

事業の概要：本館名誉教授である庄司博史氏より寄贈されたフィンランドの民族楽器カンテレ（ツィター属の撥弦楽器）1点を受け入れた。

12. プロジェクト名：標本資料「社会主義的近代化に関する記念メダル」の寄贈受入

提 案 者：小長谷有紀（民族社会研究部）

- 事業の概要：モンゴルの社会主義時代に、子供をたくさん産んだ母に与えられるメダルと、トゥバ共和国のメダル習慣を踏襲した近年のメダルを、標本資料として受け入れた。
13. プロジェクト名：標本資料「北海道アイヌの刺しゅう入り袋物資料」の寄贈受入
提案者：齋藤玲子（民族文化研究部）
事業の概要：「アイヌの文化」展示場新構築の事前調査の共同研究員で、2014年に総研大で博士の学位を取得した津田命子氏から、アイヌ伝統の刺しゅうを入れた袋物の寄贈申し出があり、館蔵品を補うもので、展示等に活用できる資料であるため、受け入れた。
14. プロジェクト名：標本資料「ロシア・イコンとチェコ・復活祭用卵、とうきび人形、ルーマニア・バグパイプ」の寄贈受入
提案者：新免光比呂（民族文化研究部）
事業の概要：標本資料としてロシア・イコン、チェコ・復活祭用卵、とうきび人形、ルーマニア・バグパイプ寄贈の受け入れを行った。
15. プロジェクト名：標本資料「標交紀所蔵 世界のコーヒー器具コレクション」の寄贈受入
提案者：西尾哲夫（民族社会研究部）
事業の概要：日本のコーヒー文化の一翼を担ったと言っても過言ではない、東京・吉祥寺にあった「もか」の店主、故標交紀（しめぎゆきとし）氏が収集保存してこられたコーヒー器具コレクションの寄贈受け入れを行い、世界のコーヒー文化の資料として保存した。
16. プロジェクト名：標本資料「マリ共和国の土器資料」の寄贈受入
提案者：三島禎子（民族社会研究部）
事業の概要：故江口教授の収集した貴重な土器（霊魂受入用）の寄贈を受け入れ、国立民族学博物館のアフリカ資料の充実を進めた。
17. プロジェクト名：標本資料「中央アジア生活資料」の寄贈受入
提案者：藤本透子（民族文化研究部）
事業の概要：中央・北アジア展示新構築へ向けて、贈答用の布やスカーフ、装身具などを受け入れた。これらの資料は、「中央アジア」セクションの「カザフ草原の暮らし」「イスラームと人生儀礼」で活用される。
18. プロジェクト名：標本資料「アフガニスタン衣装資料」の寄贈受入
提案者：藤本透子（民族文化研究部）
事業の概要：中央アジアとその近隣地域に関わる資料を充実させるため、手刺繍が施されたアフガニスタンの衣装を受け入れた。民族は特定できていないが、アフガニスタンから中央アジアにかけて居住するトルクメンの衣装と類似性

が高い。緻密な手刺繍を行う人は現在では少なくなっており、現地の生活文化を伝える貴重な資料である。

19. プロジェクト名：標本資料「ロシアシカチ・アリヤン村ナーナイ民族関連資料」の寄贈受入
提 案 者：佐々木史郎（先端人類科学研究部）
事 業 の 概 要：2015年5月21日から7月21日まで開催された企画展『岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン』の開幕式にて、シカチ・アリヤン村のヴィクトリア・ドンカン氏から寄贈された5種類12点の資料を受け入れた。
20. プロジェクト名：標本資料「極北毛皮資料」の寄贈受入
提 案 者：池谷和信（民族文化研究部）
事 業 の 概 要：本事業は、収蔵点数の少ないロシア・極北の資料を充実させるため、入手の難しい毛皮資料を受け入れたものである。これにより、収蔵点数の少ないロシア・極北の資料を充実させ、より効果的な展示を行うことができる。
21. プロジェクト名：標本資料「ロシアチュクチの毛皮等資料」の寄贈受入
提 案 者：池谷和信（民族文化研究部）
事 業 の 概 要：本事業は、収蔵点数の少ないロシア・極北の資料を充実させるため、池谷和信（民族文化研究部）自身が2002年にロシア極北のチュクチの村で調査を行った際に収集した資料を受け入れたものである。これにより、収蔵点数の少ないロシア・極北の資料を充実させ、より効果的な展示を行うことができる。
22. プロジェクト名：標本資料「ウズベキスタン衣装資料」の寄贈受入
提 案 者：藤本透子（民族文化研究部）
事 業 の 概 要：中央・北アジア展示新構築へ向けて、ウズベキスタンの長衣や帽子などの衣装を受け入れた。ウズベク、トルクメン、キルギス（クルグズ）など多様な民族の帽子が含まれており、各民族の暮らしの特徴を伝える資料である。新展示公開後のワークショップなどで活用を予定している。
23. プロジェクト名：標本資料「ソ連時代のウズベキスタン絵葉書」の寄贈受入
提 案 者：藤本透子（民族文化研究部）
事 業 の 概 要：中央・北アジア展示新構築へ向けて、京都大学の帯谷知可先生から寄贈された、ソ連時代のウズベキスタン観光絵葉書を受け入れた。1980年代のタシュケント市の様子が分かる貴重な資料で、日本人抑留者が建設に携わったナヴォイー劇場などの建物の絵葉書も含まれている。
24. プロジェクト名：標本資料「モンゴル仏教関係資料」の寄贈受入
提 案 者：藤本透子（民族文化研究部）

- 事業の概要：中央・北アジア展示新構築へ向けて、モンゴル国で現在使われている仏具などを受け入れた。「モンゴル」セクションの「仏教とシャマニズム」サブセクションで、仏教の現在を示す資料として活用される。
25. プロジェクト名：標本資料「カムイノミ関連資料」の寄贈受入
提案者：齋藤玲子（民族文化研究部）
事業の概要：2008年度のカムイノミの終了後に、祭司の野本久栄氏（北海道アイヌ協会千歳支部／当時）より儀礼具等の寄贈申し出があり、整理作業は終わっていたものの、担当教員の異動等により保留状態だったため、正式に受け入れた。
26. プロジェクト名：映像音響資料「端信行氏撮影アフリカ関係写真資料コレクション」の寄贈受入
提案者：吉田憲司（文化資源研究センター）
事業の概要：端信行氏が1960～90年代にかけてアフリカ各地で調査した際に撮影した民族誌写真6,974枚と映像記録2作品の寄贈受け入れを完了した。
27. プロジェクト名：標本資料「モンゴル生活道具資料」の寄贈受入
提案者：小長谷有紀（民族社会研究部）
事業の概要：本館のモンゴル地域の資料の充実、特にモンゴルの都市生活に関する日用品を補うことを図る目的で受け入れた。とくに、チンギス・ハーンの商標を用いたモノは、現代におけるチンギス・ハーンの文化表象について明示する貴重な学術資料である。
28. プロジェクト名：標本資料「マダガスカル生活道具資料」の寄贈受入
提案者：飯田卓（先端人類科学研究部）
事業の概要：提案者が20年にわたりマダガスカルで調査するさいに集めた、生活用具をはじめとする民族誌資料を受け入れた。いずれも、変化の著しいマダガスカルの生活文化を知るうえで貴重であり、2008年から2009年にかけておこなわれた標本資料収集を補完した。
29. プロジェクト名：標本資料「ウズベキスタン刀資料」の寄贈受入
提案者：藤本透子（民族文化研究部）
事業の概要：中央・北アジア資料を充実させるため、ウズベキスタンの刀剣の寄贈を受け入れた。この刀剣は、過去に寄贈を受け入れたウズベキスタンの衣装とセットで、祝典で用いられたものである。中央アジアで刀剣が男性の装身具として重要であることを示す、貴重な資料である。
30. プロジェクト名：標本資料「日本トカラ列島（口之島）編組品資料」の寄贈受入
提案者：飯田卓（先端人類科学研究部）

事業の概要：提案者が2012年に口之島を訪れたさいに収集した編組品（かごなど）を受け入れた。すでに民博所蔵となっている、1934年に渋沢敬三らアチックミュージアムが同じ口之島で収集したものと比較することで、80年近くもの時間的経過が生活などに与えた影響を知ることができる。

31. プロジェクト名：標本資料「日本 竹製和竿」の寄贈受入

提案者：飯田卓（先端人類科学研究部）

事業の概要：もはやほとんど製作されていない様式の、ヤマメ釣り用の釣竿を標本資料として受け入れた。多くの釣竿が振り出し式になってしまったこんにち、本資料のような継ぎ竿はめずらしく、手づくりの道具で川漁をおこなっていたようすを語る資料として貴重である。

32. プロジェクト名：標本資料「北海道アイヌ協会発行出版物」の寄贈受入

提案者：齋藤玲子（民族文化研究部）

事業の概要：公益社団法人北海道アイヌ協会（旧・社団法人北海道ウタリ協会）の活動の記録をまとめた『アイヌ史 活動編』をはじめ、機関誌『先駆者の集い』や「国際先住民の日」ポスターなど、活動の節目となったイベントに関する印刷物を寄贈いただき、受け入れた。

33. プロジェクト名：標本資料「アイヌ語学習教材」の寄贈受入

提案者：齋藤玲子（民族文化研究部）

事業の概要：「アイヌの文化」展示の新構築で、現代のアイヌ民族の文化復興の運動について紹介するため、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が編集・発行しているさまざまなアイヌ語学習教材を寄贈いただき、受け入れた。

34. プロジェクト名：標本資料「アイヌ文化関連書籍および木彫」の寄贈受入

提案者：齋藤玲子（民族文化研究部）

事業の概要：「アイヌの文化」展示新構築では、現代のアイヌ民族の権利回復や文化復興の運動について紹介するため、その先駆者として活躍した人物の著作と、文化継承にも寄与した観光に関する書籍やみやげ品も展示する予定であるが、適切な資料が館に収蔵されていないため、提案者が所蔵していたものを寄贈して受け入れた。

35. プロジェクト名：標本資料「日本 ラーメン屋台」の寄贈受入

提案者：朝倉敏夫（民族社会研究部）

事業の概要：本事業は、日韓国交正常化50周年を記念して開催した特別展「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」において、日清食品ホールディングズより借用し展示した、日本の食文化を代表するラーメンの屋台の寄贈受入を行ったものである。

36. プロジェクト名：標本資料「韓国 韓服資料」の寄贈受入
提 案 者：朝倉敏夫（民族社会研究部）
事 業 の 概 要：本事業は、韓国における民族衣装である「韓服」、ことに男児、女児用の子ども儀礼に係る衣裳を受け入れたものである。
37. プロジェクト名：標本資料「ヤップ島石貨」の寄贈受入
提 案 者：丹羽典生（研究戦略センター）
事 業 の 概 要：東日本大震災で被災した斎藤報恩会博物館の閉館に伴い、斎藤報恩会が戦前に学術助成をした南洋学術調査隊がヤップ島で収集した石貨3点の寄贈を受け入れた。
38. プロジェクト名：標本資料「韓国 トル儀礼用品」の寄贈受入
提 案 者：太田心平（民族社会研究部）
事 業 の 概 要：本事業は、伝統的なものと現代的なものが混在していることが韓国人の観覧者から問題視されていた本館常設展「朝鮮半島の文化」を新構築するに際し、この問題点を解消するために資料の寄贈を受け入れたものである。
39. プロジェクト名：標本資料「カザフスタン 枕カバー」の寄贈受入
提 案 者：藤本透子（民族文化研究部）
事 業 の 概 要：中央・北アジア展示新構築に向けて、「中央アジア」セクションの「カザフ草原のくらし」の定住家屋の内部再現のため、枕カバーを受け入れた。枕はクッションとしても用いられ、カバーには多様なパッチワークが施される。天幕内でも定住家屋内でも使われており、現地の暮らしの変化と連続性を示す資料の一部として展示場で活用される。
40. プロジェクト名：標本資料「モンゴル 馬乳酒用の壺」の寄贈受入
提 案 者：小長谷有紀（民族社会研究部）
事 業 の 概 要：本館に、モンゴル遊牧生活の道具類はほぼ一式そろっているが、本資料に相当するモノはない。新構築にふさわしい、新規資料の展示となるため、標本資料として受け入れた。
41. プロジェクト名：標本資料「日本 彫金用具コレクション」の寄贈受入
提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）
事 業 の 概 要：本事業は、京都の彫金師である園幸雄氏が使用していた彫金用具一式について、2014年度の映像番組制作、2015年度の聞き取り調査の整理の完了をもって、標本資料として受け入れたものである。
42. プロジェクト名：標本資料「日本 東北地方の神楽面関連資料」の寄贈受入
提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）
事 業 の 概 要：本事業は、東北地方の神楽を中心に研究してきたドイツ人研究者ギュンタ

ー・ツォーベル氏がこれまでの東北地方の神楽調査で収集された神楽面等の寄贈を受け入れたもので、民博で収蔵することにより、現在注目度が高まっている東北地方の芸能研究の一助をなすことができる。

43. プロジェクト名：標本資料「世界のカレンダー資料」の寄贈受入

提 案 者：杉本良男（民族社会研究部）

事業の概要：本事業は、中牧弘允本館名誉教授が在職中に収集した世界各地のカレンダーの寄贈を受け入れたものである。これらの資料により、本館の所蔵する世界各地のカレンダーコレクションの充実をはかることができる。

資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1. プロジェクト名：みんぱく映像民族誌の作成及び配付

提 案 者：情報課

事業の概要：民博製作のビデオテープ番組や研究映像から11本を選び、みんぱく映像民族誌第18集～第21集として4枚のDVDにまとめた。これを800セット製作し、図書館や研究機関などに配布したほか、テーマに応じ個別のDVDを学会等681カ所に配布した。

2. プロジェクト名：標本資料の撮影等業務

提 案 者：企画課

事業の概要：展示、情報提供等に有効利用するために、4,715件の撮影、計測、画像の利用及びそれらに付随する業務を行った。

資料管理分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：有形文化資源の保存・管理システム構築

提 案 者：園田直子（文化資源研究センター）

事業の概要：本プロジェクトでは、①有形文化資源の保存対策立案：総合的有害生物管理の考えに基づいた生物被害対策、②資料管理のための方法論策定：博物館環境の調査、収蔵庫の狭隘化対策、これら資料管理に関わる基礎研究・開発研究と事業を企画、実施、統括した。

2. プロジェクト名：東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究4

提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）

事業の概要：新潟県村上市奥三面歴史交流館収蔵庫、宮城県気仙沼市旧月立中学校の文化財一時収蔵庫について、軽微な改修による効果を生物生息調査、塵埃調査、浮遊菌調査、有機酸等の空気環境調査の観点から検証し、その効果を明らかにした。

資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1. プロジェクト名：常設展示場新構築撤去資料の点検・クリーニング・再配架及びデータ整理作業

提 案 者：企画課

事業の概要：2014年度の新構築（東南アジア展示、南アジア展示）にともない撤去された約1,850点の資料の状態のチェック（点検）、長期間展示されていた資料に関する情報のデータ作成および適切なクリーニングをおこない、収蔵庫に再配架した。

2. プロジェクト名：第3収蔵庫収蔵資料の配架見直し及び再配架作業

提 案 者：企画課

事業の概要：当初2015年度の実施を予定していたが、より緊急性の高い第1収蔵庫再配架作業に注力するため、2016年度に改めて実施することとなった。

3. プロジェクト名：標本資料の補修・保存処理

提 案 者：企画課

事業の概要：現在、常設展示場で展示されている資料の点検や、資料の他館への貸出等

での資料点検の際に発見される資料の破損、汚損などの異常に対して、適切な処理を随時行った。また、新構築あるいは特別展・企画展に選定された資料、緊急に補修する必要がある資料などの補修を行い、資料を展示可能な状態に復した。

情報化分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：京都大学学術調査隊写真コレクション・データベースの公開

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

計 画 年 次：単年度

事業の概要：2011年度から館内公開をしていた「京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース」について、テキスト情報の付与や写真資料追加等により内容を充実させた。更に、著作権処理の完了した22,316件の写真資料を「国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース」として2016年3月に一般公開した。

2. プロジェクト名：「大島襄二コレクション」の整理とデータベース作成

提 案 者：飯田卓（先端人類科学研究部）

計 画 年 次：3年計画の2年目

事業の概要：本プロジェクト予算では、写真資料用の包材の購入とデータベースの作成準備を進めた。また、5,272コマのデジタル化を別経費にて実施した。

3. プロジェクト名：「沖守弘インド民族文化写真資料アーカイブ」のデータベース作成

提 案 者：三尾稔（研究戦略センター）

計 画 年 次：3年計画の3年目

事業の概要：アーカイブ資料に含まれるスライド写真のうち、デジタル化が未完了分のデジタル化を完了させた。その後、受け入れたスライド写真を全て収納用に梱包し、スライド写真収蔵庫に収めた。一方、外部資金を活用してスライド写真に関するテキスト情報の作成を進めて完了させた。デジタル写真データとテキスト情報を統合し、データベースを完成させ館内公開を行った。

4. プロジェクト名：佐々木高明（名誉教授）による写真資料の学術情報化プロジェクト

提 案 者：池谷和信（民族文化研究部）

計 画 年 次：2年計画の2年目

事業の概要：本年度は、すでにネガのデータ化が終了しているので、昨年度と同様に日本の焼畑の専門家に来館していただき写真の分析を行った。また、申請者は、佐々木高明氏のフィールドワークの原点ともいえる熊本県五木村を訪問して、写真に登場している古老に会うことができた。そこでの情報を得ることから、佐々木氏の撮影した写真類の構成を把握することができた。これによって、公開のための基礎的準備が整備されたことになる。

5. プロジェクト名：食文化データベース構築のための事前調査：立命館大学との学術交流協定に基づく

提 案 者：朝倉敏夫（民族社会研究部）

計 画 年 次：単年度

事 業 の 概 要：立命館大学の国際食文化研究センターに所属する教授と共同で、両機関において食文化研究を推進するための一事業として、食文化データベースを構築するための事前会議を実施した。

6. プロジェクト名：三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築

提 案 者：佐藤浩司（民族社会研究部）

計 画 年 次：単年度計画を延長して2年目

事 業 の 概 要：これまで文化資源プロジェクトで作製されたインドネシア諸民族の木造民家の三次元CGはおよそ50点にのぼる。これら資料のデータベースを公開するにあたって、実際の図面と齟齬があるCGの修正をおこなった。

7. プロジェクト名：アチックミュージアム旧蔵資料の体系的整理と資源化

提 案 者：朝倉敏夫（民族社会研究部）

計 画 年 次：単年度

事 業 の 概 要：創設時に民博が旧文部省史料館から受けいれた資料のうち、情報がわからなかったため未登録だったものの素性を、資料台帳との照合などにより明らかにした。

資料2. 新規公開したデータベース

(2016年3月31日現在)

1. 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース

2016年3月28日、22,316件をインターネットに公開。

2. 沖守弘インド写真データベース

2016年3月14日、20,274件を館内公開。

3. 身装画像——近代日本の身装文化データベース

2016年1月7日、6,125件を館内公開。

資料3. 情報を修正・追加したデータベース

(2016年3月31日現在)

1. 標本資料目録データベース

1,521件のデータを追加して、合計279,540件をインターネットに公開。

2. 標本資料詳細情報データベース

データを修正して、合計264,404件を館内公開。その内インターネット公開分は、前年度から3,854件増えて、合計61,578件になる。

3. 標本資料記事索引データベース

2,509件のデータを追加して、合計58,949件をインターネットに公開。

4. 映像資料目録データベース

43件のデータを追加して、合計8,009件をインターネットに公開。

5. ビデオテープデータベース

30件のデータを追加して、合計740件をインターネットに公開。

6. 松尾三憲旧蔵絵葉書コレクションデータベース

1件のデータを追加して、合計171件をインターネットに公開。

7. 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース

8,370件のデータを追加して、合計42,060件を館内公開。(※ その内のインターネット新規公開分については資料2を参照。)

8. 音響資料曲目データベース

5,030件のデータを追加して、合計351,802件をインターネットに公開。

9. 図書・雑誌目録データベース

図書は、4,393件のデータを追加して合計665,430件をインターネットに公開。雑誌は、81タイトルのデータを追加して合計17,015タイトルのデータをインターネットに公開。

10. 梅棹忠夫著作目録データベース

90件のデータを追加して、合計6,594件をインターネットに公開。

11. 衣服・アクセサリデータベース

1,504件のデータを追加して、合計25,237件をインターネットに公開。

12. 身装文献データベース

4,581件のデータを追加して、合計170,115件をインターネットに公開。

資料4. 編集したビデオテープ・マルチメディア・展示記録・電子メディア (文化資源プロジェクト等)

1. プロジェクト名：ネパール関連のビデオテープ番組の制作

担 当 教 員：南真木人（文化資源研究センター）

(1) タ イ ト ル：「ネパールの伝統音楽：パンチャイ・バージャ」（短編番組）

(2) タ イ ト ル：「ネパールの婚礼」（長編番組）

2. プロジェクト名：中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集

担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）

(1) タ イ ト ル：「周城村の本主節：雲南省ペー族の祭り」（短編番組）

(2) タ イ ト ル：「雲南省ペー族の上棟式の今」（短編番組）

(3) タ イ ト ル：「安龍謝土：雲南省ペー族の家屋完成後の儀礼」（短編番組）

3. プロジェクト名：言語展示場の部分改修に伴う手話言語に関するビデオテープ番組製作

担 当 教 員：菊澤律子（先端人類科学研究部）

(1) タ イ ト ル：「手話の世界へようこそ！！」（マルチメディア番組）

4. プロジェクト名：ビデオテープ番組「フィリピン北部バルバラサン村の音楽とくらし」（仮題） の編集

担 当 教 員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

(1) タ イ ト ル：「フィリピン北部バルバラサン村の音楽とくらし」（短編番組）日本語

(2) タ イ ト ル：「Music in the Life of Balbalasang: A Village in the Northern Philippines」（短編番組、英語）

(3) タ イ ト ル：「Musika iti Boag ti Baryo Balbalasang: iti Amianan ti Pilipinas」（短編番組、イロカノ語）

5. プロジェクト名：研究公演「アラン峠を越えていくー在日コリアン音楽の今」に基づいた マルチメディア番組の製作

担 当 教 員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

(1) タ イ ト ル：「アラン峠を越えてゆく：在日コリアン音楽の今」（マルチメディア番組）

6. プロジェクト名：和太鼓の製作プロセスに関する長編番組の製作

担 当 教 員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

(1) タ イ ト ル：「大阪・浪速の太鼓づくり：大阪市浪速区」（長編番組）

7. プロジェクト名：カンボジアの大型影絵芝居スバエク・トム全7夜の上演記録映像（英語字幕版）の制作

担 当 教 員：福岡正太（文化資源研究センター）

- (1) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 1 (Night 1): Preah Ream Constructing the Caseway」(長編番組、英語字幕)
- (2) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 2 (Night 2): Bunhakay」(長編番組、英語字幕)
- (3) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 3 (Night 3): Sar Neakabah : Magically Produced Naga Arrows」(長編番組、英語字幕)
- (4) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 4 (Night 4): Battle of Kampann and Hanuman」(長編番組、英語字幕)
- (5) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 6 (Night 6): Will of Sukkachar」(長編番組、英語字幕)
- (6) タイトル：「Sbaek Thomm Episode 7 (Night 7): Will of Inthochitt」(長編番組、英語字幕)

8. プロジェクト名：「ラージャスターン州の生活・信仰・儀礼」に関する映像資料の編集と現地語版の作成

担 当 教 員：三尾稔（研究戦略センター）

- (1) タイトル：「Lifestyle and Views of a Landlord in a West Indian Village」(短編番組、Hindi version)
- (2) タイトル：「Mother Goddess Festival in a Rajasthan Village, India」(短編番組、Hindi version)
- (3) タイトル：「Sagas Bhavji : Warrior Spirits of Rajasthan, India」(短編番組、Hindi version)
- (4) タイトル：「A Marriage in Udaipur」(短編番組、Hindi version)
- (5) タイトル：「Holi Festival in Udaipur」(短編番組、Hindi version)
- (6) タイトル：「Transformation of the Mother Goddess Festival in the Mewar Region, Rajasthan, India」(長編番組、Hindi version)
- (7) タイトル：「A Hindu Marriage in Rajasthan」(長編番組、Hindi version)
- (8) タイトル：「ラージャスターン州メーワール地方のくらしと信仰」(マルチメディア番組)

9. プロジェクト名：展示記録映像のあり方に関する実践的研究

担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）

- (1) タイトル：「企画展 岩に刻まれた古代美術 アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」(展示記録、パノラマ)
- (2) タイトル：「企画展 岩に刻まれた古代美術 アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」(展示記録、動画)
- (3) タイトル：「本館展示場 中央・北アジア」(展示記録、パノラマ)
- (4) タイトル：「本館展示場 東アジア展示 アイヌの文化」(展示記録、パノラマ)

10. プロジェクト名：平成27年度特別展「韓日食博」
担 当 教 員：朝倉敏夫（民族社会研究部）
（1）タイトル：「特別展 韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」（展示記録、パノラマ）
（2）タイトル：「特別展 韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」（展示記録、動画）
11. プロジェクト名：特別展「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
（1）タイトル：「特別展「夷酋列像」全周画像」（展示記録、パノラマ）
12. プロジェクト名：南アジア展示及び東南アジア展示用電子ガイドコンテンツの製作
担 当 教 員：福岡正太（展示場情報提供専門部会）
（1）タイトル：「インドの野蚕」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（2）タイトル：「木版両面捺染布」（アジュラク）（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（3）タイトル：「捺染用木版」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（4）タイトル：「絞り染め」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（5）タイトル：「アリ刺繍」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（6）タイトル：「ブータンの縫取織」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（7）タイトル：「絣織」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（8）タイトル：「ミラー刺繍」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（9）タイトル：「ラクダとの生活」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（10）タイトル：「キターブ・チャルカ」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（11）タイトル：「映画」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（12）タイトル：「手織りサリー」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（13）タイトル：「サリー」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（14）タイトル：「若者のファッション」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（15）タイトル：「南インドの婚礼」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（16）タイトル：「婚礼と音楽（パンチャイ・バージャ）」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（17）タイトル：「ホーム儀礼」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（18）タイトル：「ヒンドゥーの神がみ」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（19）タイトル：「憑依」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（20）タイトル：「ゾロアスター教徒の儀礼」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（21）タイトル：「ナヴァラートリ」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（22）タイトル：「北インドの婚礼」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（23）タイトル：「食文化」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（24）タイトル：「南アジアの雑踏」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（25）タイトル：「金細工」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
（26）タイトル：「ビーズ細工」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）

- (27) タイトル：「仮面作り」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (28) タイトル：「ネパールの婚礼」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (29) タイトル：「吹き矢」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (30) タイトル：「イスラーム・ファッション」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (31) タイトル：「マレーシア先住民の民族工芸」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (32) タイトル：「台所」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (33) タイトル：「ムエタイ」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (34) タイトル：「木彫り人形」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (35) タイトル：「影絵人形」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (36) タイトル：「女工」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (37) タイトル：「寺院」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）
- (38) タイトル：「得度式」（電子ガイド、日本語・英語・韓国語・中国語）

13. プロジェクト名：次世代ビデオテーク更新案の作成

担 当 教 員：福岡正太（展示場情報提供専門部会）

- (1) タイトル：「ビデオテーク紹介番組」（短編番組）

14. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業

担 当 教 員：朝倉敏夫（民族社会研究部）

- (1) タイトル：「江原道のソバ料理」（短編番組）
- (2) タイトル：「自動車告祀 交通安全を願う韓国人」（短編番組）
- (3) タイトル：「2014 韓国の初誕生祝い」（短編番組）
- (4) タイトル：「(仮) 한국의 신풍속, 산후조리원 (韓国の新風俗、産後処理院)」（短編番組）
- (5) タイトル：「(仮) 한복, 현재를 입다 (韓服 現在を着る)」（短編番組）
- (6) タイトル：「(仮) 상을 시작하는 새로운 공간, 장례식장 (喪を始める新たな空間、葬礼式場)」（短編番組）

15. プロジェクト名：カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊演舞の実施」

担 当 教 員：齋藤玲子（民族文化研究部）

- (1) タイトル：「平成27年度カムイノミ記録」（イベント記録映像）

16. プロジェクト名：(2014年度に業務依頼製作予定が延期されていたもの)

担 当 教 員：三尾稔（研究戦略センター）

- (1) タイトル：「映像で見るマンダラ」（マルチメディア番組）

17. プロジェクト名：みんぱく映像民族誌の作成及び配付

提 案 者：情報課

事 業 内 容：民博製作のビデオテーク番組や研究映像から11本を選び、みんぱく映像民

族誌第18集～第21集として4枚のDVDにまとめた。これを800セット製作し、図書館や研究機関などに配布したほか、テーマに応じ個別のDVDを学会等681カ所に配布した。

- (1) タイトル：みんぱく映像民族誌第18集「米国南西部先住民の宝飾品」
- (2) タイトル：みんぱく映像民族誌第19集「アイヌの魚皮布の衣装」
- (3) タイトル：みんぱく映像民族誌第20集「南シベリアに住むトゥバの人々」
- (4) タイトル：みんぱく映像民族誌第21集「セネガルの生活と文化」

資料5. 2015年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料

1. タイトル：「Guitars of Puerto Rico」（研究用映像、新公開）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
番組内容：Puerto Rico is strongly influenced by Spanish culture. The film features the making of the guitar – like instruments which are originally from Spain, and the music played on them. (番組番号7227)
2. タイトル：「Guitars of Portugal」（研究用映像、新公開）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
番組内容：The film features many local guitar traditions of Portugal, from Lisbon, Coimbra, Braga and Alentejo. (番組番号7228)
3. タイトル：「神への祈りと喜びの舞曲：バッハからバルトークへ」（マルチメディア番組、新公開）
担当教員：新免光比呂（民族文化研究部）
番組内容：バッハやバルトークというと高尚なクラシック音楽という印象だが、教会での祈りや生活の中の楽しみから育まれたものである。(番組番号6053)
4. タイトル：「ネパール 都市の結婚式」（短編番組、新公開）
担当教員：南真木人（文化資源研究センター）
番組内容：富裕なヒンドゥー司祭カースト（バフン）家族の結婚式。日数をかけ、儀礼を省略しない点で王族の結婚式に近いといわれます。(番組番号1727)
5. タイトル：「ネパール 山村の結婚式」（短編番組、新公開）
担当教員：南真木人（文化資源研究センター）
番組内容：ヒマラヤを遠くに仰ぎ見ながら繰り上げられる結婚式。パンチャイ・バージャの伝統的な音楽が二人の門出を祝福する。(番組番号1728)

6. タイトル：「ネパールの金細工」（短編番組、新公開）
担当教員：南真木人（文化資源研究センター）
番組内容：金細工カーストの職人が、女性を着飾る金の装飾品を制作する。それは色とりどりのビーズに通され、首飾りなどに仕上げられる。（番組番号1729）
7. タイトル：「カトマンドゥ盆地の30年」（短編番組、新公開）
担当教員：南真木人（文化資源研究センター）
番組内容：1982年に民博が取材した四家族を2013年に再訪した。30年の間にネパールはどう変わったのか、家族のその後から振り返る。（番組番号1730）
8. タイトル：「映像で見るマンダラ」（マルチメディア番組、新公開）
担当教員：立川武蔵（国立民族学博物館名誉教授）
番組内容：マンダラには、宮殿の中に並ぶほとけたちが描かれている。ほとけの姿や、マンダラを用いた瞑想について解説する。（番組番号6055）
9. タイトル：「祝いの音 戦いの記憶：フィリピン・ルソン島 山地民の結婚式」（短編番組、新公開）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
番組内容：フィリピン、ルソン島に住むカリングの結婚式は、キリスト教会で式をあげたあと、花嫁の家で伝統的なゴング音楽を演じる。（番組番号1723）
10. タイトル：「Sounds of Bliss, Echoes of Victory : A Kalinga Wedding in the Northern Philippines」（短編番組、新公開）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
番組内容：A wedding among Kalinga people of the Philippines includes a Christian ceremony at church followed by the traditional music and dance at the house of the bride' s family.（番組番号3723）
11. タイトル：「Kasar idiyay Tabuk」（短編番組、新公開）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
番組内容：A wedding among Kalinga people of the Philippines includes a Christian ceremony at church followed by the traditional music and dance at the house of the bride' s family.（番組番号8030）
12. タイトル：「강원도의 메밀음식」（短編番組、新公開）
担当教員：朝倉敏夫（民族社会研究部）
番組内容：메밀과 관련한 강원도 사람들의 생애 이야기가 펼쳐진다.（番組番号8031）
13. タイトル：「자동차고사 : 안전을 기원하는 한국인의 염원」（短編番組、新公開）
担当教員：朝倉敏夫（民族社会研究部）

番組内容： 안전을 기원하는 마음으로 자동차 고사를 준비하는 과정과 사람들의 생각을 담고 있다. (番組番号8032)

14. タイトル：「2014 한국의 돌잔치」(短編番組、新公開)

担当教員：朝倉敏夫 (民族社会研究部)

番組内容：최신의 한국 돌잔치 문화, 상업화 된 돌잔치의 외연을 가지고 있지만 아이와 부모의 건강과 행복을 기원하는 마음은 세대를 관통하며 이어진 (番組番号8033)

15. タイトル：「自動車告祀：交通安全を願う韓国人」(短編番組、新公開)

担当教員：朝倉敏夫 (民族社会研究部)

番組内容：交通安全を願う人びとの考えと、自動車告祀 (安全祈願儀式) を準備する過程をみる。(番組番号2814)

16. タイトル：「2014 韓国の初誕生祝い」(短編番組、新公開)

担当教員：朝倉敏夫 (民族社会研究部)

番組内容：最新の韓国のトル (初誕生祝い)。その形式は産業化しているが、子どもの健康と幸福を願う父母の心は時代を超えて続いている。(番組番号2815)

17. タイトル：「ミャオ族の聖歌隊：中国雲南省富民県西山教会献堂式」(短編番組、新公開)

担当教員：横山廣子 (民族社会研究部)

番組内容：雲南省東北部のミャオ族にはキリスト教徒が多い。教会の献堂式で、聖歌隊が西洋声楽にも似た発声法で、見事なコーラスを披露した。(番組番号1724)

18. タイトル：「リス語の讚美歌：中国雲南省怒江リス族自治州の教会」(短編番組、新公開)

担当教員：横山廣子 (民族社会研究部)

番組内容：怒江自治州のリス族、ヌー族の多くはキリスト教徒。彼らはいずれもリス語で、独特の発声の男女混成四部合唱の讚美歌を歌う。(番組番号1725)

19. タイトル：「回族の結婚式：中国雲南省大理」(短編番組、新公開)

担当教員：横山廣子 (民族社会研究部)

番組内容：大理の回族はペー語を話すが、このようにペー族の花嫁が嫁いでくるのは珍しい。イスラム教徒と中国との両方の特徴がみられる結婚式。(番組番号1726)

20. タイトル：「トゥバ人たちの住むところ」(研究用映像、新公開)

担当教員：小長谷有紀 (民族社会研究部)

番組内容：トゥバ人は、ロシア、中国、モンゴルの3カ国にまたがって住んでいる。ホームイと呼ばれるのと歌で知られている人びとである。(番組番号7226)

21. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 1：金槌の種類」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：彫金と鍛金では、作りたい形状に合わせてさまざまな金槌が使われる。ここでは多様な金槌の種類について紹介する。（番組番号1731）
22. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 2：器をつくる」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：金属の板を叩き、形状を整える金属加工の技術を鍛金という。ここでは、鍛金による器作りを紹介する。（番組番号1732）
23. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 3：指輪をつくる」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：指輪は形状を鍛金で作し、模様を彫金する。ここでは、鍛金と彫金の技術を組み合わせた指輪作りを紹介する。（番組番号1733）
24. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 4：タガネをつくる」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：タガネは彫金の作業で最も重要な道具である。彫金の形状に合わせて職人自ら制作します。ここではそうしたタガネ作りを紹介する。（番組番号1734）
25. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 5：ペンダント」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：首もとを飾るペンダント。ここでは、美しい模様を彫金で削りだしていく様子を紹介する。（番組番号1735）
26. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 6：タガネの種類」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：彫金で最も重要な道具のタガネは、職人によってさまざまな種類のものが制作される。ここでは多様なタガネの種類を紹介する。（番組番号1736）
27. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 7：糸鋸」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：金属工芸では、複雑な形状を糸鋸で切り出していく。ここでは固い金属を慎重に切り出していく職人の技を紹介する。（番組番号1737）
28. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 8：キサゲ」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：金属工芸は、作品の艶がその美しさを演出させる。ここでは、キサゲという道具で艶を出す作業を紹介する。（番組番号1738）

29. タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金 9：地金を丸くする」（短編番組、新公開）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
番組内容：鍛金の基礎技術に、地金の板を丸く加工していく技術がある。ここでは、そのような基礎的な技術を紹介する。（番組番号1739）
30. タイトル：「雲南省ペー族の暮らしと文化」（マルチメディア番組、新公開）
担当教員：横山廣子（民族社会研究部）
番組内容：雲南省のペー族に関して、地域の歴史と周辺民族、生活と農作業、人生儀礼、年中行事、手工芸や音楽を紹介する総合的映像民族誌。（番組番号6047）
31. タイトル：「手話の世界へようこそ！！」（マルチメディア番組、新公開）
担当教員：菊澤律子（先端人類科学研究部）、吉岡乾（民族社会研究部）、相良啓子（先端人類科学研究部）、庄司博史（民族社会研究部）、池田ますみ
番組内容：世界ではいろいろな手話が使われており、方言もある。基本単語やお話を通して世界の手話や日本各地の手話を見してみる。（番組番号6054）

社会連携分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

提 案 者：齋藤玲子（民族文化研究部）

事業の概要：当館所蔵のアイヌの標本資料の保管と伝承を祈るカムイノミを行い、併せてアイヌ古式舞踊の演舞を実施した。また、工芸品製作の実演と解説をする「アイヌ工芸 in みんなく」を開催し、より深くアイヌ文化に親しむ機会を提供した。

2. プロジェクト名：みんなくく改訂版制作

提 案 者：上羽陽子（文化資源研究センター）

事業の概要：学校機関や各種社会教育施設を対象に貸出を行う学習キット「みんなくく」は、パック制作後10年を耐用年数とし、また、時代に即した内容にするためにも改訂を行う必要がある。2015年度は「アンデスの玉手箱（2002年度制作）」「インドのサリーとクルター（2002年度制作）」を改訂した。

（1）アンデスの玉手箱

前年度に検討した基本コンセプトに基づき、パックの内容を見直し、新たに内容物を購入した。書籍やフィールドアルバムについても内容を拡充し、改訂版「アンデスの玉手箱」を2パック制作した。

（2）インドのサリーとクルター

既存パックを基礎として内容物の検討を行い、新たに物品を購入した。書籍やフィールドアルバムについても内容を拡充し、改訂版「インドのサリーとクルター」を2パック制作した。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

提 案 者：上羽陽子（文化資源研究センター）

事業の概要：民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップの実施、ならびに展示新構築にともなうワークシートの更新作業やワークシート新規作成に向けた調査などを実施した。

●実施したワークショップ

(1) 「躍動する南アジア ― 春から秋のみんなくフォーラム2015」 関連ワークショップ

- ・忠実再現！インド西部の刺繍布 ― 展示資料の模写に挑戦

2015年5月23日 参加者数：13名

- ・忠実再現！インド西部の刺繍布 ― 展示資料の模写に挑戦

2015年6月6日 参加者数：11名

- ・忠実再現！インド西部の刺繍布 ― 展示資料の模写に挑戦

2015年6月27日 参加者数：12名

(2) 夏休みこどもワークショップ

- ・キラキラカラフルインド布

2015年7月31日 参加者数：10名

(3) 特別展「韓日食博 ― わかちあい・おもてなしのかたち」 関連ワークショップ

- ・味わう体験「韓国の汁文化と発酵調味料」コチュとコチュジャンとキムチの話

2015年9月5日 参加者数：29名

- ・味わう体験「韓国の汁文化と発酵調味料」何が違う？ テンジャンのチゲとクク

2015年9月26日 参加者数：34名

- ・味わう体験「韓国の汁文化と発酵調味料」オンマの味 "ミヨックク" とカンジャン

2015年10月3日 参加者数：36名

(4) 年末年始展示イベント「さる」 関連プログラム

- ・「ふむふむ なるほど！ みんなく初歩き」

2016年1月11日 参加者数：174名

2. プロジェクト名：ボランティア活動支援

提 案 者：上羽陽子（文化資源研究センター）

事業の概要：民博におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体である MMP（みんなくミュージアムパートナーズ）の活動支援を行なった。

●MMP による企画・実施したイベント

(1) 「韓日食博」 関連ワークショップ「香りの体験『オリジナル七味づくり』」

9月5日(土) 参加者117名

9月27日(土) 参加者106名

10月3日(土) 参加者103名

(2) 来館者サービス 1 グループ

- ・点字体験ワークショップ 参加者326名

毎月第2土曜日12：00～15：30

4月11日、5月9日、6月13日、7月1日、8月8日、8月22日、9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月12日

- ・本館展示案内（視覚障がい者案内）

5月5日(火) 個人 参加者2名

5月15日(金) 石川県立盲学校 参加者5名、付添者7名

5月29日(金) 山形県立山形盲学校 参加者2名、付添者6名
 6月19日(金) 秋田県立盲学校 参加者3名、付添者4名
 6月26日(金) 守口障がい者生活支援事業みみ 参加者7名、付添者9名
 10月1日(木) 福島県立盲学校高等部 参加者6名、付添者9名
 10月12日(月) 関西盲導犬協会つつじの会 参加者21名
 10月15日(木) 新潟県立新潟盲学校中学部 参加者2名、付添者2名
 11月9日(月) 福知山市視覚障害者協会 参加者6名、付添者6名
 12月11日(金) 高槻市視覚障害者福祉協会 参加者19名、付添者14名
 12月26日(土) 個人 参加者2名
 1月22日(金) 京都府立盲学校 参加者5名、付添者5名
 1月25日(月) 個人 参加者1名
 2月15日(月) 個人

- ・2015年度みんぱく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

4月3日(金)、4月6日(月)

- ・2015年度みんぱく秋の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

8月21日(金)、8月24日(月)

(3) 来館者サービス2グループ

- ・あそびの広場2015

5月5日(火) 参加者のべ863名

- ・ワークショップ「オセアニアのアウトリガーカヌーで大航海！」

11月14日、15日(土・日) 参加者45名

- ・おりがみで遊ぼう！～干支シリーズ～「申」

1月11日(月・祝) 参加者42名

(4) 博学連携グループ

- ・「わくわく体験inみんぱく」

5月15日(土) 門真市立速見小学校 100名

6月19日(金) 香美町立柴山小学校 9名

7月14日(火) 帝塚山中学校 105名

9月4日(金) 大阪市立新豊崎中学校 80名

9月14日(月) 摂津市立鳥飼東小学校 34名

10月15日(木) 大阪市立長吉南小学校 73名

10月23日(金) 京都市立伏見南浜小学校 75名

11月26日(木) 西宮市立高須西小学校 57名

12月1日(火) 和泉市立青葉はつが野小学校 186名

3月26日(土) 伊丹市文化財愛護少年団 25名

- ・2015年度みんぱく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

4月3日(金)、4月6日(月)

- ・2015年度みんぱく秋の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

8月21日(金)、8月24日(月)

(5) チーム・ブラカーシュ

- ・躍動する南アジア ― 春から秋のみんなくフォーラム2015関連イベント

「インド刺繍とインドのくらし」初心者向けワークショップ「はじめての一步 やってみようミラー刺繍」(木・土曜日)

6月4日、6日、11日、13日、18日、20日、25日、27日 参加者のべ157名

7月2日、4日、9日、11日、16日、16日、18日、23日、25日、30日 参加者のべ124名

8月1日、6日、8日、13日、15日、20日、22日、27日、29日 参加者のべ219名

6月～8月 合計参加者500名

- ・ワークショップ「やってみよう！ミラー刺繍」

11月14日、15日(土・日) 参加者93名(会場：グランフロント大阪)

- ・ワークショップ「やってみよう！ミラー刺繍」、「楽しもう！手作りリリアン」

3月6日(日) 参加者93名(会場：神戸市立須磨海浜水族園)

(6) 事務局

- ・「西アフリカの昔話を語る」

7月20日(月・祝) 参加者61名

11月8日(日) 参加者24名

1月24日(日) 参加者38名

- ・「描き書き@みんなく」― 世界の台所 ―

8月23日(日) 参加者76名

- ・「干支の申で絵馬を作ろう」

1月24日(日) 参加者62名

資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1. プロジェクト名：みんなく運用・保守

提 案 者：企画課

事業の概要：147の学校や社会教育施設に、延べ201回の貸出を行った。また、貸出先での紛失や破損に伴う補修、老朽化した資料の交換等を行った。

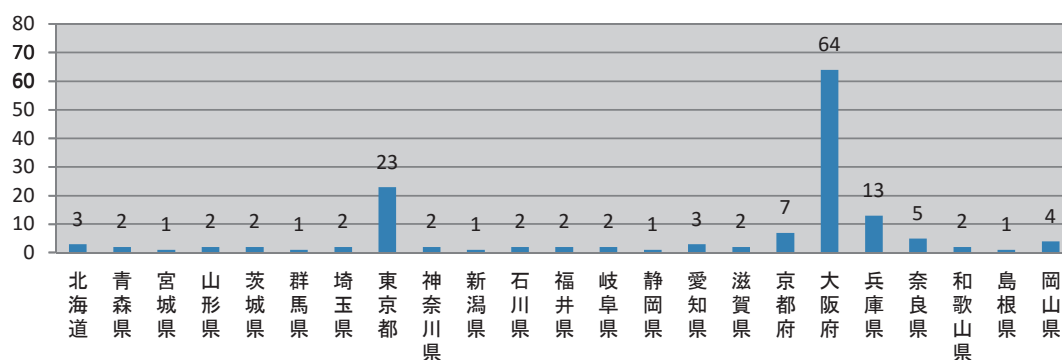
(1) 運用について

1) 運用パック		
名 称	制作担当教員	個数
極北を生きる	岸上 伸啓	2
アンデスの玉手箱	關 雄二	2
ジャワ島の装い	福岡 正太	1
イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾 哲夫	1
ブータンの学校生活	栗田 靖之	1
ソウルスタイル	朝倉 敏夫	2
ソウルのこども時間	朝倉 敏夫	2
インドのサリーとクルター	杉本 良男	2
プリコラージュ	佐藤 浩司	3
アラビアンナイトの世界	西尾 哲夫	2
アイヌ文化にであう	佐々木利和	1
アイヌ文化にであう2	佐々木利和	1
モンゴル	小長谷有紀	2
あるく、ウメサオタダオ展	小長谷有紀	1
計		23

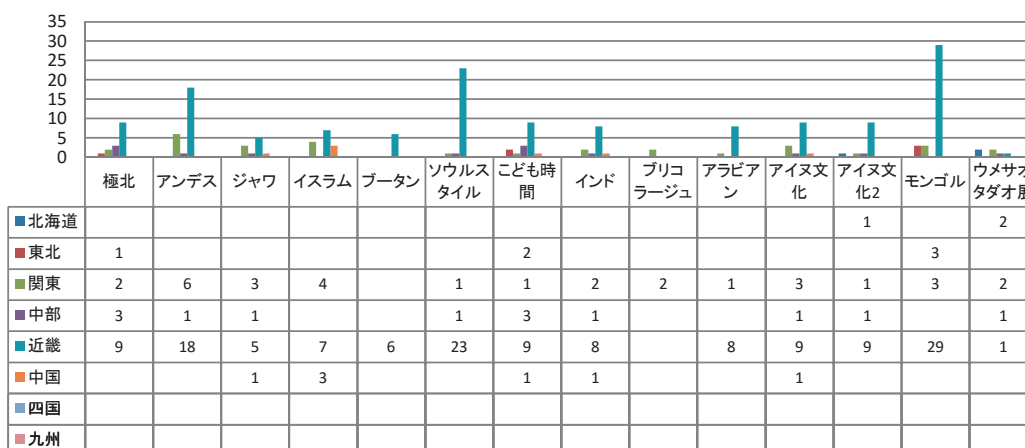
2) 運用概況		
●貸出対象	小中高等学校 社会教育施設等	
●貸出期間	1回につき2週間以内	
●使用料	輸送費のみ利用者負担	
◆貸出件数	201	26年度実績 231
◆貸出機関	147	157
	小学校	44
	中学校	15
	高等学校	16
	大学	26
	その他*	46
◆利用人数	11,576	13,416
	(サンプル133件中) (サンプル129件中)	

* 内訳は5) を参照ください。

3) 都道府県別利用状況（貸出機関単位：合計157件）

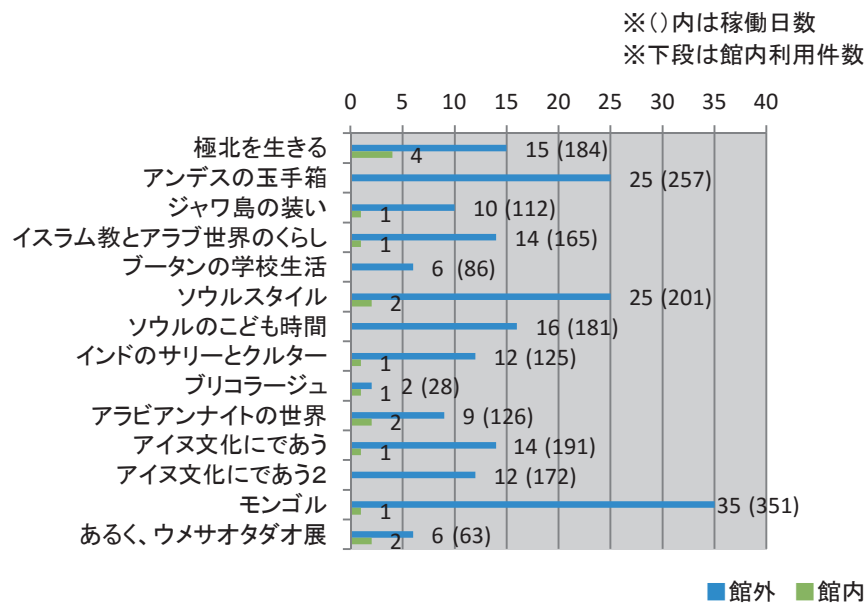


* パック別地方内訳



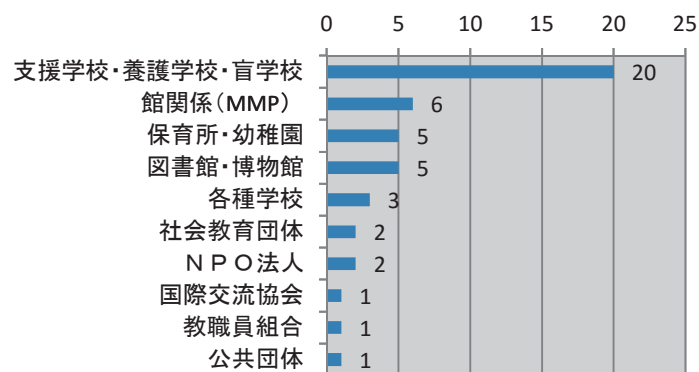
- 昨年に引き続き、大阪府内の利用が一番多く44%(昨年49%)だった。
- 147機関中78機関(53%)がリピーター。
- 全国23都道府県(昨年は24都道府県)へ貸出が行われた。

4) パック別利用件数（館外201件、館内16件）



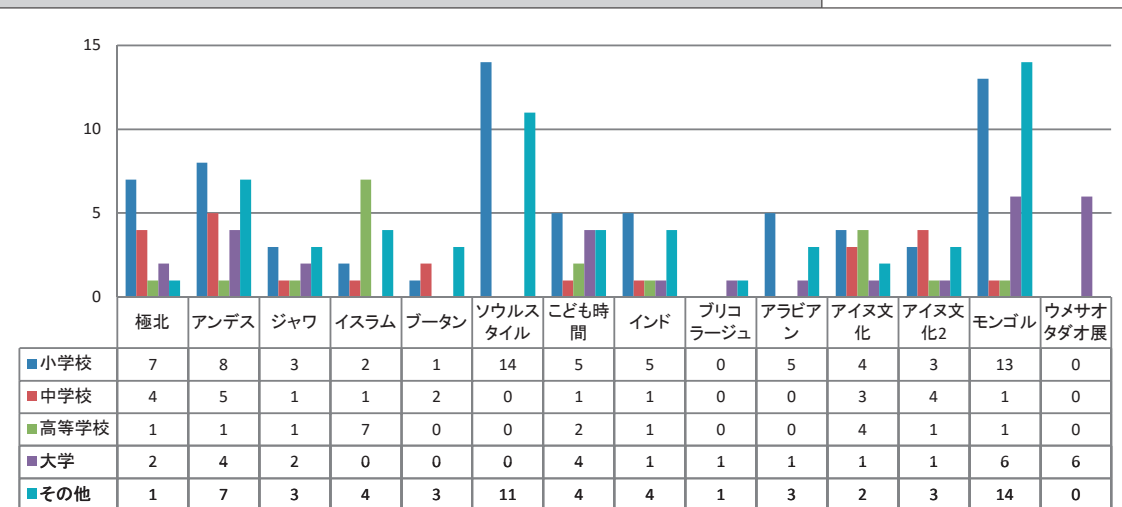
- 昨年に引き続き、「モンゴル」の貸出件数が最多で、次いで「ソウルスタイル」「アンデスの玉手箱」の貸出が多かった。
- 「アラビアンナイトの世界」の貸出件数が大きく減少した。(昨年21件)

5) 貸出機関における「その他」の機関内訳（46件）



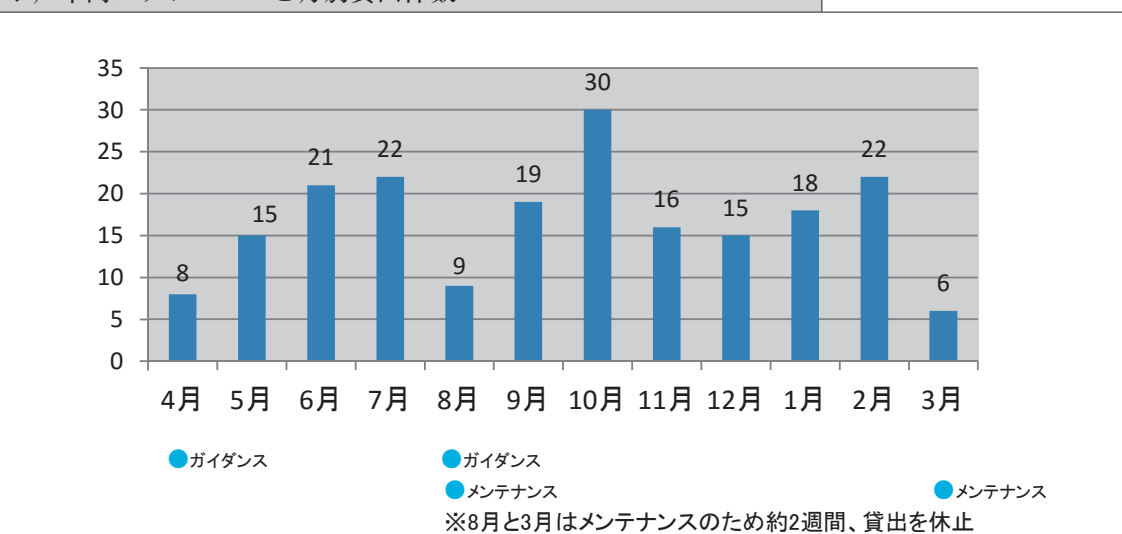
- 支援学校等への貸出が昨年に引き続き多かった。(昨年は26件)
- 館関係が多いのは、MMPが「わくわく体験」で利用しているため。

6) パック別貸出機関内訳 (貸出機関単位: 合計147件)



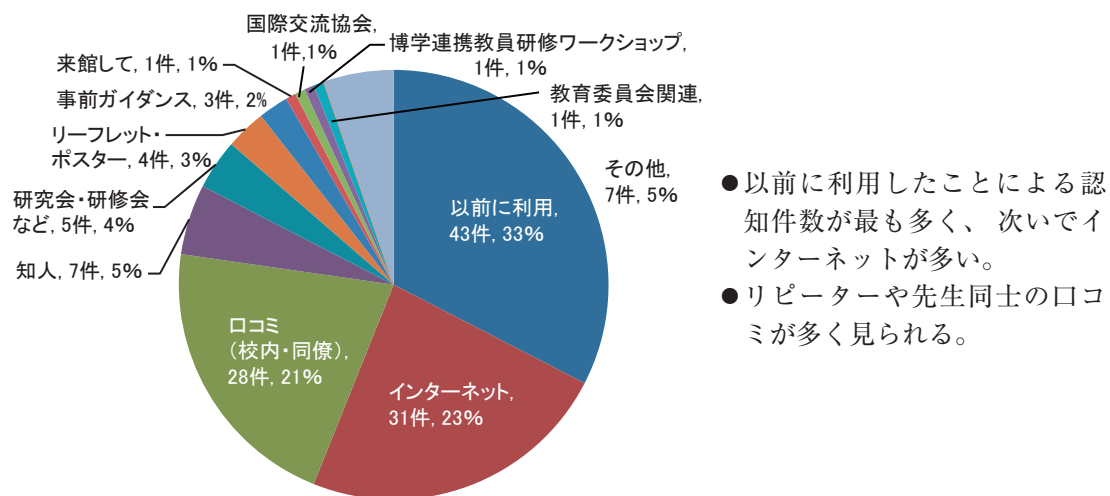
- 高等学校での利用は「イスラム教とアラブ世界の暮らし」パックが最多で7件であった。
- 小学校での利用は「ソウルスタイル」パックが最多で14件、次いで「モンゴル」パックが13件であった。

7) 年間スケジュールと月別貸出件数

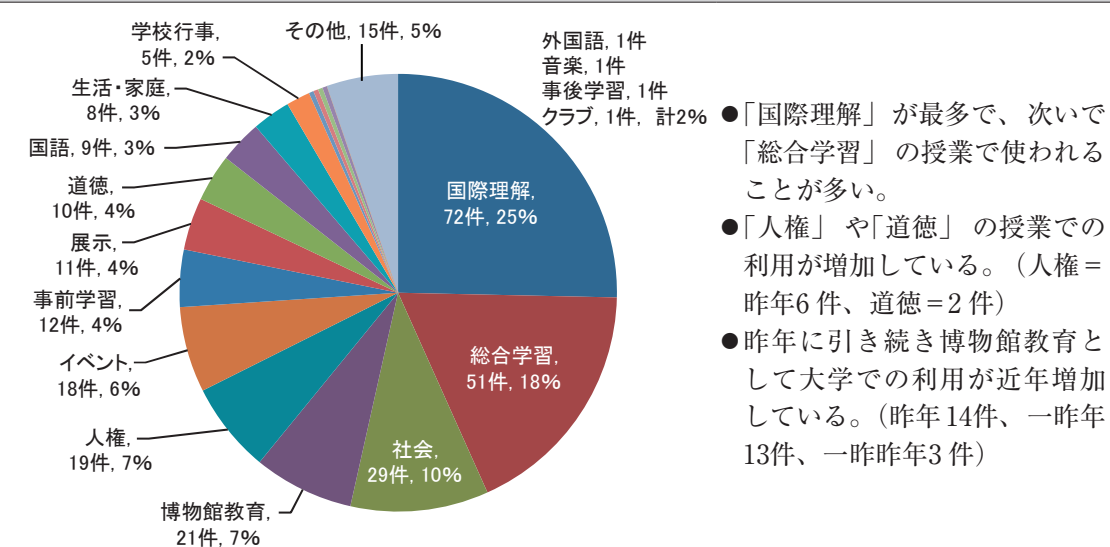


- 4月「あるく、ウメサオタダオ展」新規版、「ジャワ島の装い」改訂版貸出開始。
- 例年、夏休みや春休みの時期は利用件数が少ないが、今年度は7月の利用件数が伸びた。(昨年10件、一昨年13件) また、昨年に引き続き、3月のメンテナンス直前まで貸出があった。
- 2学期は学芸会や各種イベントが多いため昨年と同じく10月の利用件数が伸びた。11月は例年より貸出件数が少なかった。(昨年35件、一昨年36件)

8) 「みんぱっく」の認知媒体（アンケート回答数：132件、複数回答あり）



9) 使用目的（アンケート回答数：284件、複数回答あり）



10) 運用コスト

●衣装クリーニング代	230,000 円
●資料補充・修理費	304,000 円
計	534,000 円

※一部執行予定を含む

● 運用開始から10年以上が過ぎ、内容物の劣化による修理・補充の機会が多い。今年度は破損等の際にすでにある予備の資料を用いて補充し対応した。今年度みんぱっくの運用・保守費としてかかった費用は約534千円であった。

11) 新規もしくは改訂版を制作したパック

改訂版「アンデスの玉手箱」2パック、改訂版「インドのサリーとクルター」2パック

(2) みんなぱっく利用者からの要望（アンケートより）

- バックが重すぎて移動が大変だった。
- スーツケースにはじめに入っていたように収納するのがむずかしかった。
- 高校生でも着られるようなサイズの衣装があれば良い。
- 貸出期間をもう少し長くしてほしい。
- 他の地域の「みんなぱっく」も出来ると良い。

(3) 2015年度の取り組み

- 14種類23バックすべてのCO₂処理（3月）および衣装203点のクリーニング（8月・3月）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなぱっく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- 「みんなぱっく改訂版『アンデスの玉手箱』および『インドのサリーとクルター』」の制作（2015年度文化資源プロジェクト）
- みんなぱっくの活用事例（「Let's みんなぱっく!!」）の取材（2件）、ホームページ更新作業（2016年1月1件、4月1件（予定））
- アンケートの回収率をあげるために改善を行った

(4) 来年度以降の取り組み

- 「みんなぱっく新規版『世界のイスラーム（仮題）』」の制作（文化資源プロジェクト）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなぱっく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- みんなぱっくの活用事例（「Let's みんなぱっく!!」）の取材、ホームページ更新作業
- 現行バックの資料の補充・ストックの確保、備品の交換
- 破損・紛失があった際に使用するストックの在庫管理・分類整理
- アンケートの改善

インド刺繍と
インドの暮らし





【応募方法】

申込フォームまたは往復ハガキに、必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。なお、ご応募は1通につき1名までとさせていただきます。

<申込フォーム>

みんぱくホームページ内にある、各ワークショップの申込フォーム画面にしたがって必要事項をご入力ください。

<往復ハガキ>

受付期間をご確認いただき、下記内容と返信ハガキに申込者の住所と氏名をご記入のうえ、ご応募ください。

※ 消えるボールペンなどは使用しないでください。返信内容の印刷時にご記入いただいた内容が消えてしまうおそれがあります。

忠実再現！インド西部の刺繍布 — 展示資料の模写に挑戦

- 1 参加者氏名
- 2 よみがな
- 3 年齢
- 4 性別
- 5 郵便番号・住所
- 6 電話番号(緊急時連絡用)
- 7 このワークショップへの抱負や期待すること

夏休みこどもワークショップ

キラキラ カラフル インド布 — フィールドワークに挑戦！

- 1 参加者氏名
- 2 よみがな
- 3 学年
- 4 性別
- 5 郵便番号・住所
- 6 保護者氏名
- 7 電話番号(緊急時連絡用)

【応募先】

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館 企画課

「希望ワークショップ名」係

【お問合せ】

企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝除く9時～17時)

- ・ご応募いただいた方には、当館より結果をお知らせします。
- ・申込フォームでお申込の場合、受付完了の返信メールをお送りします。返信メールが届かない場合、お手数ですが再度お申込をお願いします。
- ・ご応募いただいた方の個人情報は、当館事業に関する目的以外では使用しません。
- ・天候やその他の都合により、イベント開催日時などの変更がある場合があります。予めご了承ください。

ご利用案内

- 開館時間.....
10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日.....
水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 観覧料.....
一般420円/高校・大学生250円/小中学生110円
*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール.....
「万博記念公園駅」徒歩約15分
*自然文化園窓口で当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス.....
[近鉄バス](阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、
JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車.....
万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。



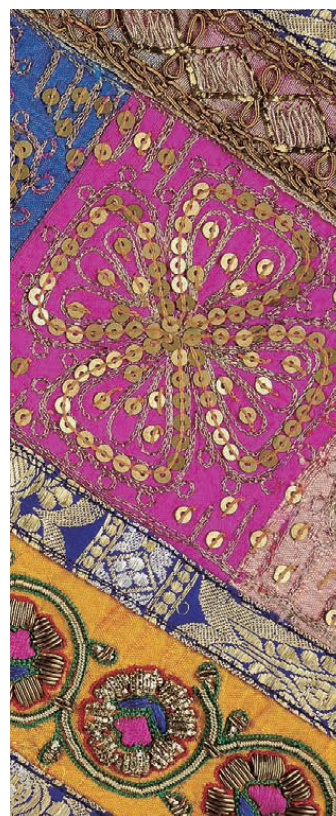
国立民族学博物館

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課
Tel:06-6878-8532 (土日祝除く9時～17時)
www.minpaku.ac.jp/

「躍動する南アジアー春から秋のみんなくフォーラム2015」関連ワークショップ インド刺繍とインドの暮らし

キラキラ カラフル インド布

フィールドワークに挑戦！



インドの人びとは、どんなふうに布をつくったり、つかったりしているの？

日 時：2015年8月1日(土) 10:30～16:00 (集合 10:20) / 場 所：国立民族学博物館 本館展示場

対 象：小学4年生～6年生 / 定 員：12名 / 参加費：500円

講 師：上羽陽子(国立民族学博物館 准教授) / ファシリテーター：喜多川真由美(国立民族学博物館 技術補佐員)

キラキラカラフルインド布

フィールドワークに挑戦！

6月25日(木)
受付開始！

サリーや袋、壁かざり。南アジア展示にはインド各地でつくられた布がたくさんあります。インドの人びとは、どんなふうに布をつかったり、つかったりしているのでしょうか。みんなくで1日研究者になって、上羽先生といっしょに展示場をフィールドワークして調べよう！発見したこと、先生の解説からわかったことは、オリジナル報告書にまとめます。

実施日：2015年8月1日(土)

時 間：10:30～16:00 (集合 10:20)

場 所：国立民族学博物館 本館展示場

対 象：小学4年生～6年生

定 員：12名 (事前申込制、先着順)

参加費：500円

持ち物：デジタルカメラ(携帯電話のカメラは不可)、昼食、飲み物

講 師：上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)

ファシリテーター：喜多川真由美(国立民族学博物館 技術補佐員)

※ 土曜日は、小学生は無料観覧日のため展示観覧券は不要です。

※ 昼食をご持参の方は、館内の指定場所をご利用ください。

また、みんなく館内のレストラン、万博公園内のカフェもご利用いただけます。

※ 自然文化園(有料区域)を通して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。
大阪モノレール「公園東口駅」からは、自然文化園(有料区域)を通過せずに来館できます。

講師プロフィール：



上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)

インドで牧畜を主な生業とする人びとの刺しゅうや染め、織りなどの手工芸品の研究をしています。著書に『インド・ラバリー社会の染織と儀礼ーラクダとともに生きる人びと』(昭和堂2006年)、『インド染織の現場ーつくり手たちに学ぶ』(臨川書店2015年)。

成果物について：

当日制作された成果物は、館内で展示したあと郵送にて返却いたします。

展示期間：2015年8月6日(木)～8月11日(火)

返却時期：2015年8月17日(月)頃

保護者の方へ：

今回のプログラムは、展示場などのオープンスペースで実施しますが、こどもたちの自立心を尊重するために見学席を用意しておりません。こどもたちのフィールドワーク、成果物制作の手伝いはご遠慮ください。



応募方法：6月25日(木)から受付開始。定員に達し次第受付終了。申込フォームまたは往復ハガキに、必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。なお、ご応募は1通につき1名までとさせていただきます。

〈申込フォーム〉 みんなくホームページ内にある、申込フォーム画面にしたがって必要事項をご入力ください。

〈往復ハガキ〉 下記内容と、ハガキ返信面に申込者の住所・氏名をご記入のうえ、ご応募ください。

※ 消えるボールペンなどは使用しないでください。返信内容の印刷時にご記入いただいた内容が消えてしまうおそれがあります。

- 1 参加者氏名
- 2 ふりがな
- 3 学年
- 4 性別
- 5 郵便番号・住所
- 6 保護者氏名
- 7 電話番号(緊急時連絡用)

応募先：

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館 企画課 「キラキラカラフルインド布」係

※ ご応募いただいた方には、当館より返信いたします。

※ ご応募いただいた方の個人情報、当館事業に関する目的以外では使用しません。

お問い合わせ：

企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝を除く 9:00～17:00)

前回の夏休みこどもワークショップの様子：



今回も先生の解説を聞いたり、調査してわかったことを報告書にまとめるよ

国立民族学博物館

●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420円/高校・大学生 250円/小中学生 110円

※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」徒歩約15分

※自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

※自然文化園(有料区域)を通過せずに来館できます。

●バス…………… [近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel:06-6878-8532
(土日祝を除く 9:00～17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>





当日随時受付（先着順）／参加無料／要特別展示観覧券

香りの体験 『オリジナル七味づくり』

たくさんスパイスの香りを楽しみながら、スパイスの調合に挑戦してみよう！

時 間：① 13:00～14:00／② 14:30～15:30

場 所：特別展示館体験所（地下1階）

定 員：各回100名（先着順）

協 力：エスピー食品株式会社

※ 特別展示観覧券が必要です。



事前申し込み制（先着順）

味わう体験 『韓国の汁文化と発酵調味料』

9月6日（日）、9月27日（日）、10月4日（日）

韓国の食事は、飯（バブ）・汁（クク）・漬け物（キムチ他）とおかずの組み合わせが基本にあります。韓国の汁ものに使う「醤（チャン）」に注目する本プログラムでは、解説を聞きながら味わい楽しむ経験を通して、食文化の在り様を知り、展示物に対するより深い興味と洞察の視点を持っていただけるように構成されています。

時 間：15:00～16:00（集合14:50）

場 所：職員食堂（本館1階）

対 象：高校生以上

定 員：各回36名（事前申し込み制、先着順）

参加費：500円

司 会：福留奈美（フードコーディネーター、お茶の水女子大学専門食育士（上級）、学術博士）

9月6日（日） 申し込み受付開始：7月27日（月）

コチュとコチュジャンとキムチの話

献 立：コチュジャンチゲ、雑穀ごはん、キムチ数種類

講 師：守屋重記子（女子栄養大学 准教授）

李 倫 和 リー・ユン（食文化ポータル株式会社 DiaryR 代表取締役）

9月27日（日） 申し込み受付開始：8月27日（木）

何が違う？テンジャンのチゲとクク

献 立：テンジャンクク、雑穀ごはん、キムチと副菜

講 師：高正子 コウ・チェンジャ（神戸大学 講師）

10月4日（日） 申し込み受付開始：9月4日（金）

オンマの味“ミヨック”とカンジャン

献 立：ミヨック（ワカメスープ）、雑穀ごはん、キムチと副菜

講 師：高正子 コウ・チェンジャ（神戸大学 講師）

※ 応募方法の詳細は、裏面をご確認ください。



韓国書家 カン・ビョンイン（カン・ビョンイン）

事前申し込み制（先着順）

食のオノマトペと カリグラフィー

9月20日（日）

申し込み受付開始：8月27日（木）

韓国の書道家、美楽実（カン・ビョンイン）先生による「食」に関するオノマトペをカリグラフィー（ハングル書芸）で表現するワークショップです。

時 間：13:00～15:00（集合12:50）

場 所：エントランスホール（本館1階）

対 象：小学校5年生から大人まで

定 員：10名（事前申し込み制、先着順）

参加費：500円

持ち物：筆、割りばしなど筆記具として使用したいもの

講 師：美楽実 カン・ビョンイン（カリグラフィー研究所「スルドン」代表・書道家）

司 会：金良均 キム・ギョンギョン（韓国芸術総合学校 教授）

朝倉敬夫（国立民族学博物館 教授）

※ 応募方法の詳細は、裏面をご確認ください。

事前申し込み制（先着順）／参加無料

火おこし体験

10月18日（日） 申し込み受付開始：8月27日（木）

食べ物と深い関わりのある火、火にまつわるお話をきいたり、火おこし体験をしてみよう！

時 間：① 11:00～12:00／② 13:00～14:00／③ 14:30～15:30

（集合 各回10分前）

場 所：特別展示館体験所（予定）

対 象：小学生とその保護者

定 員：各回10組（30名程度、事前申し込み制、先着順）

協 力：大阪ガス（株）、大阪ガスビジネスクリエイト（株）

※ 応募方法の詳細は、裏面をご確認ください。

知っておいてほしいこと

アレルギーについて：

香りの体験では、七味の材料を各自でブレンドしてお持ち帰ります。

味わう体験では、日本と韓国で市販されている一般的な食材・調味料を使用した献立の試食を行います。

いずれもアレルギー対応食ではありません。ご了承の上、参加申し込みをお願いいたします。

日韓国交正常化50周年記念

特別展 韓日食博

わかもあい・おもてなしのわたも

関連ワークショップ

こどもも
大人も
いっしょに体験！

関連ワークショップ

韓日食博

わかしあい・おもてなしのかたち

特別展

日韓国交正常化50周年記念



日韓国交正常化50周年記念

特別展

韓日食博 ―わかしあい・おもてなしのかたち―

2015年8月27日(木)～11月10日(火)

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

休 館 日：水曜日

(8月中旬9月23日(水・祝)は開館、翌24日(木)は休館)

観 覧 料：一般 630 円 (560 円)

高校・大学生 450 円 (250 円)

小・中学生 250 円 (130 円)

※本館展示もご覧いただけます。

() は、20 名以上の団体料金。20 名以上の学校団体は本館展示観覧料(高校・大学生 200 円、小・中学生 90 円)でご覧になれます。その他の観覧料割引については、ホームページ等でご確認ください。

応募方法 申込フォームまたは往復ハガキに必要な事項をご記入のうえ、ご応募ください。

- ・味わう体験『韓国の汁文化と発酵調味料』
- ・食のオノマトペとカリグラフィー

ご応募は、1通につき1名までとさせていただきます。

＜申込フォーム＞

みんなくホームページ内にある、申込フォーム画面にしたがって必要事項をご入力ください。

＜往復ハガキ＞

下記内容とハガキ返信面に申込者の住所・氏名をご記入のうえご応募ください。

- 1 参加者氏名 2 ふりがな 3 年齢 4 性別
- 5 郵便番号・住所 6 電話番号(緊急時連絡用)

応募先：

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館 企画課

「ワークショップ名 ○月○日開催分」係

- ・火おこし体験

ご応募は、1通につき1組まで(保護者1名につき小学生2名まで)とさせていただきます。

＜申込フォーム＞

みんなくホームページ内にある、申込フォーム画面にしたがって必要事項をご入力ください。

＜往復ハガキ＞

下記内容とハガキ返信面に申込者の住所・氏名をご記入のうえご応募ください。

- 1 参加者氏名 2 ふりがな 3 学年 4 性別
- 5 郵便番号・住所 6 保護者氏名
- 7 電話番号(緊急時連絡用)

※ 未就学児をお連れの方は、その旨ご記入ください。
(未就学児は、火おこしの体験はできません。)

応募先：

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館 企画課

「火おこし体験 ○時間催分」係

お問合せ先

国立民族学博物館 企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝除く 9:00～17:00)

ご確認ください

- * ご応募いただいた方には、当館より返信いたします。
- * 申込フォームでお申し込みの場合、受付完了の返信メールをお送りします。
もし3～4日たっても返信メールが届かない場合は、お手数ですがお電話にてお問い合わせください。
- * 消えるボールペンなどは使用しないでください。返信内容の印刷時にご記入いただいた内容が消えてしまうおそれがあります。
- * ご応募いただいた方の個人情報は、当館事業に関する目的以外では使用しません。
- * 天候やその他の都合により、イベント開催日時などの変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。



国立民族学博物館

●開館時間……………10:00～17:00(入館は16:30まで)

●観覧料……………一般 830 円 / 高校・大学生 450 円 / 小・中学生 250 円

※本館展示もご覧いただけます。観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール……………万博記念公園駅(徒歩約15分)

「公園東口駅」下車徒歩約15分

※自然文化園(有明館)を進行せずに本館でできます。

●バス……………近鉄バス(阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※「日本庭園前(グランド)」側にある自衛隊専用通行口をお通りください。

●休館日……………水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

【大阪・万博記念公園】

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10番1号

企画課 博物館事業係

Tel.06-6878-8532

(土日祝を除く 9:00～17:00)

<http://www.minpaku.ac.jp/>



みんぱく

Fête de la
MUSIQUE
21 JUIN

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE

音楽の祭日 2015 in みんぱく

Fête de la musique

無料観覧日

6/21
(日)

10:25～16:35(開場 10:00)
〈本館展示場入館は16:30まで〉

※自然文化園を通行される場合は入園料(大人250円、小・中学生70円)が必要です。
※大阪モノレール「公園東口駅」からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

※楽器はイメージです。
展示場で探してみてください!



昨年の様子

主催: 国立民族学博物館 主管: 音楽の祭日 日本事務局

音楽の祭日とは

「音楽の祭日」は、プロ・アマを問わずにみんなで音楽を楽しむイベントです。フランスで1982年にはじまった「音楽の祭典」にならい、2002年、関西からスタートしました。「音楽は全ての人のもの」という精神ののっとり、夏の一番長い夏至の前後の日に開催されます。本年度、みんぱくでは6月21日(日)に開催いたします。

*音楽の祭日 日本事務局 <http://www.mediatv.ne.jp/ongakunosaijitsu/>

プログラム

会場：特別展示館

10:25~10:30 開会式

10:30~10:55 オカリナクラブあいあい

大小さまざまなオカリナを使ったオカリナアンサンブル。

10:55~11:20 The choo-san's show

アメリカ民謡をベースに70年代フォーク・ロックを演奏。

11:20~11:45 ギターアンサンブル ビタミンQ

クラシックギター6本のアンサンブルによる、なつかしいスタンダード曲の演奏。

11:45~12:10 琵琶 (WAKA)

朝鮮半島の伝統楽器 伽耶琴(カヤグム)と日本の伝統楽器 薩摩琵琶による演奏。

12:10~12:35 Brass Ensemble Saturday

金管楽器によるアンサンブルで、日本・イギリス・アメリカ・イタリア各国の伝承曲を演奏。

12:35~12:45 休憩

12:45~13:10 響喜

民謡、祭囃子から歌謡曲、オリジナルまで、あらゆるジャンルの曲を和楽器で演奏。

13:10~13:35 サウガとアレグロアンサンブル

モンゴルの馬頭琴、中国の揚琴等の民族楽器による合奏や、ホーミーの重唱。

13:35~14:00 ハラウ フラ オ マカナアロハ

ハワイの楽器イプヘケ、ウリウリ等を用いて歌の意味を踊りとともに表現。

14:00~14:25 3km

歌、箏、パーカッション、ギター、ベースで民謡やオリジナル曲を演奏。

14:25~14:50 女性和太鼓ユニット びんか

女性2人による和太鼓の演奏。

14:50~15:15 THE ENGINES

ベトナムやバルカン半島、南米の音楽をプラスバンドで演奏。

15:15~15:40 イナーラ・セリクパエヴァ

カザフの民族楽器ドムブラやコプスによる伝統音楽の演奏。

15:40~16:05 TATAQUEM (叩研)

ブラジル北東部のお祭り太鼓マラカトゥ等を使って賑やかに演奏。

16:05~16:30 神奈川馬匠と締組 Jr.

こどもたちによる和太鼓のオリジナル曲等の演奏。

16:30~16:35 閉会式

会場：エントランスホール(本館1F)

11:20~11:45 バンチャ・パワール

ネパールの擦弦楽器サーランギと両面太鼓マール等を使ってネパールの民族音楽を演奏。

11:45~12:00 川野 良子

ベトナムの伝統楽器 竹笛(サオ・チュック)の演奏とベトナム語の歌。

12:00~12:25 ジョゼフ・ンコシ

南アフリカの木琴(マリンバ)と西アフリカの太鼓(ジェンベ)の演奏。

12:25~12:50 Bicho Papao (ビショ・パパン)

ボーカル・パーカッションとギター・ボーカルの2人でブラジル発の音楽 ボサノバの名曲をポルトガル語で演奏。

12:50~13:15 Pulse

打弦楽器ダルシマーでバロックやクラシックの音楽を演奏。

13:15~13:40 mina&帝塚山少年少女合唱団

こどもたちによるカレーの歌(オリジナル曲)の合唱と踊り。

13:40~14:05 チャンドラ・バスカラ/スワ・ギタ・ブルティウィ・ジャパン/アルジュナ・スリカンディ

バリ島で受け継がれ、発展を続けるガムラン音楽の演奏と舞踊。

14:05~14:30 みえいこ

ウクレレとカホンでさまざまなジャンルの曲を演奏。

14:30~14:55 天満バンドワゴン

パチカやダラブッカ等のパーカッションにのせ、耳馴染みのある歌謡曲やポップスを演奏。

14:55~15:20 りゅうりゅうフルス吹奏楽団

中国の伝統楽器フルス(葫蘆絲)を使って中国民謡や日本の曲を演奏。

15:20~15:45 ÁNIMO

ペルー、ボリビア等の中南米のfolkloreを民族楽器を使って演奏。



関連イベント みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう

「次週開催!『音楽の祭日』を10倍楽しむ法」

6/14(日)
14:30~15:30

話者：出口正之(国立民族学博物館 教授)

6月21日に開催の「音楽の祭日」を楽しむ方法を伝授します。

※出演者や演奏時間は変更になる場合があります。 ※三脚や一脚、自撮り棒等での撮影はご遠慮ください。



●開館時間 ……………

交通のご案内

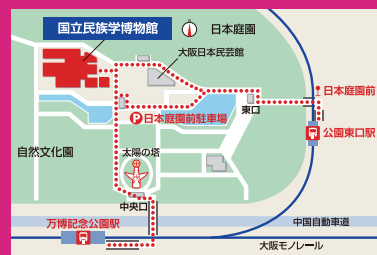
●大阪モノレール…「万博記念公園駅」徒歩約 15 分
*自然文化園を通行される場合は、入園料(大人 250 円、小・中学生 70 円)が必要です。

「公園東口駅」徒歩約 15 分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス……………[近鉄バス](阪本駅前行き)阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から 約 10 分、「日本庭園前」下車徒歩約 13 分

●乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

音楽の祭日2015
in みんぱく
WEBページはこちら



「音楽の祭日2015 in みんなく」実施報告書

平成27年 6月21日(日)、国立民族学博物館で開催した「音楽の祭日2015 in みんなく」について下記のとおり報告します。

記

1. 日時【天候】 平成27年 6月21日(日) 無料観覧日 10:25~16:35 【雨のち曇り】
2. 実施場所 特別展示館および本館エントランスホール
3. 参加人数 特別展示館 のべ2,777名、エントランスホール のべ2,358名 (合計:5,135名)
4. 出演者人数 193名・25グループ(新規15グループ含む)
5. 民博側担当 教員 6名、機関研究員 2名、総務課 2名、企画課13名
6. アルバイト 5名(総合研究大学院大学生) (当日) 運搬・搬入・会場撤収
7. 外部委託 特定非営利活動法人 人文力 (当日) 運搬・搬入・会場撤収:3名
(株)アーチェリープロダクション
(6月19日) 機材設営: 4名 (当日) 音響・照明調整: 8名
ジャパンレントオール(株) スタッキングチェア200脚 レンタル・設置・撤収
(株)グラフィック チラシ印刷15,000部
井高野 PDM(株) チラシ発送準備作業 438件
ボートスタッフ(株) アンケート集計 178件
8. 費用 983千円 〈内 訳〉・特定非営利活動法人 人文力 97千円
・(株)グラフィック (印刷のみ) 58千円
・アルバイト謝金 38千円
・井高野 PDM(株) 21千円
・(株)アーチェリープロダクション 500千円
・制服クリーニング 13千円
・ジャパンレントオール(株) 210千円
・アンケート集計 45千円
・CD-R(記録用) 1千円

9. 趣旨

「音楽の祭日」は、1982年にフランスで生まれた「音楽の祭典」を原型に、毎年、夏至の日を中心に世界的に開催される行事で、わが国でも2002年から日本事務局が中心となって文化復興及び国際交流を目指して各種の文化施設で参加費無料の音楽会などが開催されてきた。民博では、「音楽の祭日」の趣旨に賛同し、社会連携の一環として、音楽家または音楽グループに博物館を開放することを目的としてイベント「音楽の祭日2015 in みんなく」を開催した。民博における「音楽の祭日」の開催は、2003年以来通算13回目となる。

10. 実施概要等

昨年と同様、特別展示館(約300席)およびエントランスホール(約150席)をメイン会場とした。応募があった出演音楽家・音楽団体45グループから抽選に通った25グループが参加し演奏をおこなった。今年は特別展示館、エントランスホールともに音響・照明については専門業者が担当した。昨年に引き続き、特別展示館の椅子のレンタル・設置を専門業者に依頼したため、事故も無く、準備もスムーズに行われた。午前中は雨が降っていたが、特別展示館、エントランスホールともに終始満席の状態となり、立ち見の観客が多くみられた。

11. 当日の様子



以上

展示分野

資料1. 本館展示新構築（文化資源プロジェクト（機関））

1. プロジェクト名：中央・北アジア展示及びアイヌの文化展示の新構築

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

事業の概要：2008年度より開始した本館展示の全面的な新構築の最終年次にあたる2015年度は、「中央・北アジア」展示および東アジアの「アイヌの文化」の展示の新構築を実施し、2016年3月17日に公開予定であった。しかし、失火を受けた復旧作業のため、展示の公開は2016年6月16日まで延期された。

2. プロジェクト名：南アジア展示及び東南アジア展示用電子ガイドコンテンツの製作

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

事業の概要：「南アジア展示」「東南アジア展示」の新構築に伴い、新たに必要となった電子ガイド用コンテンツ（日本語、英語、中国語、韓国語）を制作した。また、番号プレートを展示場に設置し来館者へのサービスを開始した。

資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：特別展「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」

期 間：2015年8月27日～11月10日

主 催：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

共 催：京都造形芸術大学、大阪工業大学、韓国芸術総合学校

実行委員長：朝倉敏夫（民族社会研究部）

実 行 委 員：〔館内〕 丸川雄三（先端人類科学研究部）

林 史樹（特別客員教員）

金 昌鎬（外国人研究員）

〔館外〕 守屋亜記子（女子栄養大学）

李愛俐娥（早稲田大学）

奇 亮（韓国国立民俗博物館）

金 永才（韓国国立民俗博物館）

安 廷允（韓国国立民俗博物館）

事業の概要：2013年度には日本の「和食」と韓国の「キムジャン文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、日韓両国において、「食」文化への関心が高まっている。また、2015年は日韓国交正常化50周年にあたる年であった。そうした状況において、韓国国立民俗博物館と共同で「食」をテーマとした特別展を開催した。

2. プロジェクト名：特別展「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界——」

期 間：2016年2月25日～5月10日

主 催：人間文化研究機構・国立民族学博物館、「夷酋列像」展実行委員会（北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道新聞社）、人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館

実行委員長：日高真吾（文化資源研究センター）

実 行 委 員：〔館内〕 佐々木史郎（先端人類科学研究部）

齋藤玲子（民族文化研究部）

野林厚志（文化資源研究センター）

吉田憲司（文化資源研究センター）

〔館外〕 右代啓視（北海道博物館）

山際晶子（北海道博物館）

内田順子（国立歴史民俗博物館）

横山百合子（国立歴史民俗博物館）

吉本 忍（国立民族学博物館名誉教授）

事業の概要：本展示は、北海道博物館の開館記念特別展示として開催（2015年9月5日から11月8日）され、国立歴史民俗博物館においても特集展示として開催された。蠣崎波響筆「夷酋列像」の実像を明らかにするとともに、この絵画が描かれた18世紀の蝦夷地とその国際性を広く紹介するものであった。

資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：企画展「岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」

期 間：2015年5月21日～7月21日

主 催：国立民族学博物館

共 催：新潟県立歴史博物館、横浜ユーラシア文化館

実行委員長：佐々木史郎（先端人類科学研究部）

実 行 委 員：〔館外〕 浜田晋介（日本大学）

畠山 貞（横浜ユーラシア館）

宮尾 享（新潟県立博物館）

大野 遼（ユーラシアンクラブ）

井出晃憲（京都大学大学院人間環境学研究所・ユーラシアンクラブ）

事業の概要：ロシア連邦ハバロフスク地方のアムール河の河畔に残る古代の岩面画と、それを聖地、聖なるものとして今でも守り続ける先住民族ナーナイとの関わりを、岩面画の拓本とナーナイの民族資料とともに紹介した。

資料4. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：特別展「大見世物展 ― 騙るカラダ 騙るモノ ―（仮題）」の準備

期 間：2016年9月8日～11月29日

会 場：国立民族学博物館

主 催：国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館

実行委員長：笹原亮二（民族文化研究部）

実 行 委 員：〔館内〕 野林厚志（文化資源研究センター）

山中由里子（民族文化研究部）

〔館外〕 鶴飼正樹（京都文教大学）

川添 裕（横浜国立大学）

松尾恒一（国立歴史民俗博物館）

川村清志（国立歴史民俗博物館）

事業の概要：2016年9月開催の特別展「見世物大博覧会」の開催に向けて、展示内容の検討、展示資料の選定、各地の博物館・資料館との資料借用の交渉などを行い、基本的な展示の内容と構成を確定した。

2. プロジェクト名：特別展「東日本大震災の展示（仮題）」の準備

期 間：2017年1月～3月（予定）

会 場：国立民族学博物館

主 催：国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館（予定）

共 催：大槌町役場（予定）

実行委員長：竹沢尚一郎（民族文化研究部）

実 行 委 員：〔館内〕 佐藤浩司（民族社会研究部）

〔館外〕 李 仁子（東北大学）

小山田徹（京都市立芸術大学）

伊藤 悟（京都文教大学）

事業の概要：特別展「東日本大震災の展示」の実施に向けて、民俗資料の選出と、展示紹介用パンフレットの作成を行った。なお、当初は特別展を企画していたが、企画展へと変更になった。

3. プロジェクト名：平成29年度企画展「カナダにおける先住民文化の過去、現在、未来」（仮題）の準備

期 間：2017年9月7日～11月28日

会 場：国立民族学博物館

主 催：国立民族学博物館

提 案 者：岸上伸啓（研究戦略センター）

事業の概要：2017年に建国150周年の節目を迎えるカナダにおける国家と先住民族の関係の変遷を歴史的に検証し、カナダにおける先住民文化の過去、現状そして未来について紹介する2017年度企画展の準備を実施した。

4. プロジェクト名：企画展『One Road——オーストラリアの砂漠が生んだアボリジニ・アート（仮）』準備

期 間：2016年6月9日～7月19日

会 場：国立民族学博物館

主 催：国立民族学博物館

共 催：オーストラリア国立博物館

提 案 者：丹羽典生（研究戦略センター）

事業の概要：本展示は、オーストラリア先住民のアボリジニ・アートを通じてオーストラリア史を問い直すとともに、オーストラリアにおける先住民社会の過去から現在までの変化を視野に入れつつ、絵画に映像資料を交えて紹介するものである。

資料5. その他の文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：ビデオテークと標本資料関連データベースの連携と活用

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

事業の概要：本研究は、国立民族学博物館が収蔵する映像資料や標本資料の情報を館内外で手軽に閲覧できる「みんなくデジタルビューア」の実現に向けた技術的検討を行うものである。2015年度は、ビデオテークを組み込んだデジタルビューアを民博館内にて試験公開し、試作したコンテンツおよびインタフェースについて問題のないことを実証した。

2. プロジェクト名：みんなく電子ガイドのユニバーサル対応コンテンツの試作

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

事業の概要：より多様な人々にみんなく電子ガイドによる情報提供を行うため、主に聴覚障がいをもつ利用者を想定して、既存のコンテンツに実験的に字幕を付与した。

3. プロジェクト名：屋内位置情報技術を用いた統合電子ガイドの研究と開発

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

事業の概要：携帯端末で提供する次世代みんなく電子ガイドについて、携帯端末向け位置情報技術であるiBeaconを用いた来館者の現在位置に応じて情報を提供できる環境を整え、実用レベルに準ずる環境の整備を目指した。

4. プロジェクト名：次世代ビデオテーク更新案の作成

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

事業の概要：ビデオテークの更新に向けて、利用者アンケートを設計して実施を開始した。また、インフォメーションスタッフ等へのヒアリングに基づき、来館者によるビデオテーク利用への心理的抵抗を減らすため、利用をうながす映像を実験的に制作した。

5. プロジェクト名：次世代ユニバーサルミュージアム展示空間における多様な来館者の知覚鑑賞開発と評価研究

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

事業の概要：次世代ユニバーサルミュージアムにむけ、国の法律等からの外部評価、有識者や市民からの第三者評価、自己評価を統合する評価システムを構築した。また、この作業と連動するかたちで、多様な来館者に対応する展示空間内の動線誘導（モビリティ）手法の開発を進めた。

6. プロジェクト名：言語展示場の部分改修

提 案 者：菊澤律子（先端人類科学研究部）

事業の概要：言語展示場の入口にあるイントロダクション・ビデオのうち、「手話のはなし」について、不正確な部分を修正し、内容のアップデートを行った。

資料6. その他の文化資源計画事業

1. プロジェクト名：新構築した中国地域の文化展示場の部分改修

提 案 者：横山廣子（民族社会研究部）

事業の概要：2013年度末に新構築した中国地域の文化の展示場に関して、その後の点検を経て、修正が必要と判断された諸点につき部分改修をおこない、展示内容の改善をはかった。

2. プロジェクト名：新構築した「朝鮮半島の文化」展示の部分改修

提 案 者：太田心平（民族社会研究部）

事業の概要：2013年度に新構築した本館展示「朝鮮半島の文化」展示の構成およびデザインの一部を、観覧者アンケートおよび館外の専門家から寄せられた意見にもとづき、より効果的なものに改めた。具体的には、「住の文化」セクションと「知の文化」セクションを、より親しみやすいものにした。

3. プロジェクト名：日本の文化展示「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニホン」の部分改修

提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）

事業の概要：日本の文化展示場のなかで、「沖縄の暮らし」、「多みんぞくニホン」セクションの部分改修について、写真パネルの修正、来館者がふれることによる損傷事故を防ぐための演示方法の修正をはじめとする作業をおこなった。

4. プロジェクト名：巡回展「イメージの力 ― 国立民族学博物館コレクションにさぐる」

期 間：2015年6月27日～8月23日

主 催：国立民族学博物館、千里文化財団、郡山市立美術館

会 場：郡山市立美術館

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

事業の概要：2014年2月～6月に国立新美術館にて、また同年9月～12月に本館特別展として実施した「イメージの力 ― 国立民族学博物館コレクションにさぐる」展の巡回展を、福島県の郡山市立美術館にて開催した。

5. プロジェクト名：館外企画展「武器をアートに ― モザンビークにおける平和構築」

期 間：2015年10月17日～11月23日

会 場：東京藝術大学大学美術館

主 催：国立民族学博物館、東京藝術大学

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

事業の概要：2013年度7月から11月にかけて民博企画展として開催し、大きな社会的反響を呼んだ「武器をアートに ― モザンビークにおける平和構築」展を、2015年10月17日から11月23日まで、東京藝術大学大学美術館にて開催した。

6. プロジェクト名：年末年始展示イベント「さる」

期 間：2015年12月10日～2016年1月26日

提 案 者：上羽陽子（文化資源研究センター）

事業の概要：年末年始期において干支を題材にした展示ならびに関連催事を行い、来館者に季節感を伝えるとともに、世界各地の「さる」と人びととの関わりを示し、民博の教職員を対象にした、展示目的・構成の設定から展示資料の選定、および展示に至る活動の研修を行った。

岩に刻まれた古代美術

Ancient Rock Art of the Amur River Basin: A Sacred Place of the Indigenous People, Sikachi Alyan

アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン



◎ 会期 2015年 5月21日[木] — 7月21日[火]

◎ 会場 国立民族学博物館 企画展示場

◎ 開館時間: 10:00~17:00 (入館は16:30まで) ◎ 休館日: 水曜日 ◎ 無料観覧日: 6月21日(日)

◎ 観覧料: 一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

◎ () は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

◎ 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。 ◎ 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

[主催] 国立民族学博物館 [共催] 新潟県立歴史博物館 横浜ユーラシア文化館 [協力] NPOユーラシアンクラブ 北方ユーラシア学会 NPOアンコール・ワット拓本保存会 ロシア連邦ハバロフスク地方シカチ・アリヤン村 ロシア北方先住民族協会ハバロフスク地方支部 NPOメデ・センター [後援] 在大阪ロシア連邦総領事館

写真: マスクの拓本



雪の中から浮かび上がるヘラジカ



ヘラジカの拓本

◎企画展◎ Ancient Rock Art of the Amur River Basin: A Sacred Place of the Indigenous People, Sikachi Alyan

岩に刻まれた古代美術 アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン

本展では、ロシア連邦ハバロフスク地方に暮らす先住民族ナナイの村落であるシカチ・アリヤン村に現存する岩面画について拓本と写真を使って紹介します。地元の少数民族ナナイの人びとが岩面画と自分たちの文化とをどのように結びつけてきたのかを、村の伝承と民族資料から考えます。

ロシア極東の先住民族の伝統と現代の姿を少しでも知る機会になり、新しい文化を発見いただければ幸いです。



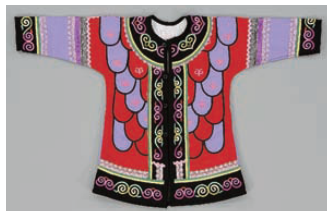
うすぐまるシカ



夏のアムール河



冬のアムール河での穴釣り



婚礼衣装



マスクの拓本



晴れ着のえり



マスクの拓本

◎ 関連イベント

みんなくゼミナール

先住民が守る古代遺跡 —アムール河流域シカチ・アリヤン村の岩面画

5月16日(土) 13:30~15:00 (13:00開場)

講師 佐々木史郎 (国立民族学博物館 教授)

場所 本館講堂 定員 450名 (先着順) 申込不要/参加無料

みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう

シカチ・アリヤンの岩面画とナナイの神話

5月24日(日) 14:30~15:30 場所 企画展示場

シカチ・アリヤンの岩面画の成立年代と日本の縄文時代

7月5日(日) 14:30~15:30 場所 本館ナビひろば

講師 佐々木史郎 申込不要/要展示観覧券

国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール… [万博記念公園駅] 徒歩約 15 分
*自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
[公園東口駅] 徒歩約 15 分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス…………… [近鉄/バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、
JR 茨木駅から 約 10 分、[日本庭園前] 下車徒歩約 13 分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

みんなく クリック

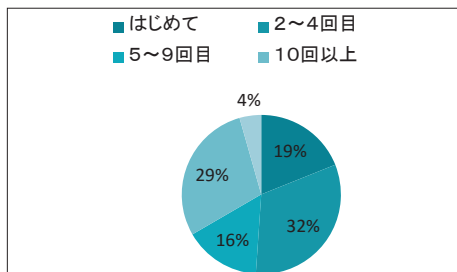
[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151 (代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



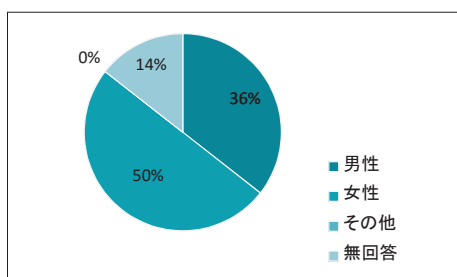
企画展「岩に刻まれた古代美術ーアムール河の少数民族の聖地チカチ・アリャン」アンケートグラフ

○アンケート回答数 90件

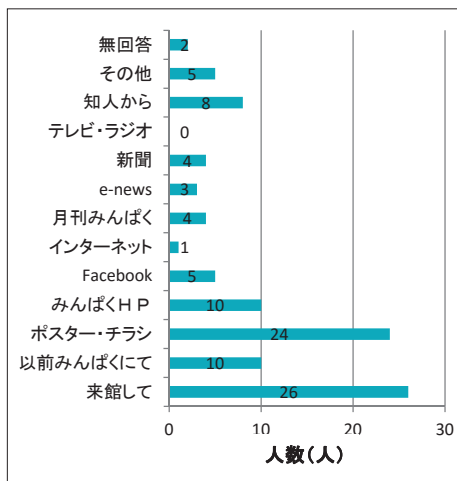
来館回数



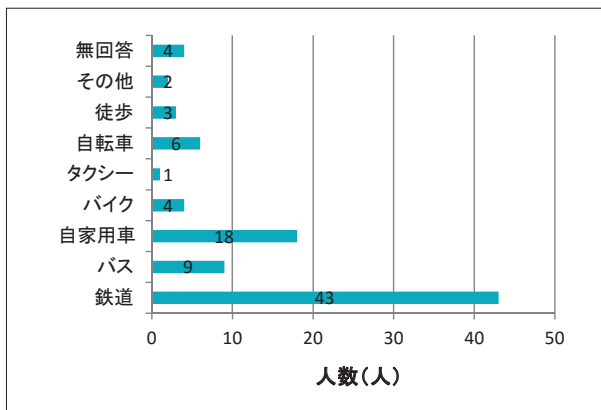
性別 (男女比)



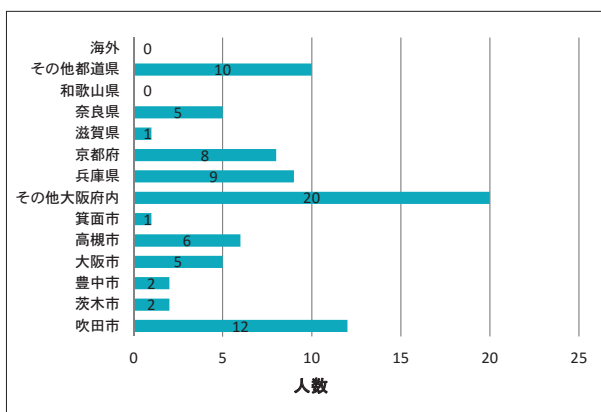
企画展を知ったのは (複数回答)



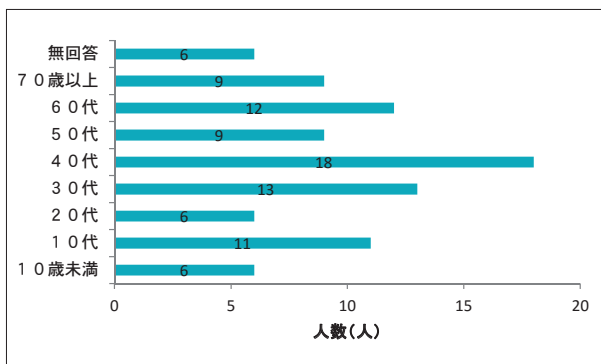
交通機関



どこから来られましたか？



年代別





日韓国交正常化50周年記念 特別展
Food Culture in Korea and Japan:
The Tastes of NANUM and OMOTENASHI

食卓の日

わかしあい
 おもてなしのかたち

2015年 8月 27日 木 — 11月 10日 火

開館時間 | 10時 - 17時 (入館は16時30分まで) 会場 | 国立民族学博物館 特別展示館

休館日 | 水曜日 (期間中 9月23日(水・祝)は開館、翌24日(木)は休館)

主催 |  国立民族学博物館

 韓国国立民俗博物館

共催 |  大阪工業大学

 学校法人 国生山学園
 京都造形芸術大学

 K'ARTS
 Korea National University of Arts

助成 | KOREA  FOUNDATION

 助成 日本万国博覧会記念基金
 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

公益財団法人日韓文化交流基金

日韓国交正常化50周年記念 特別展
Food Culture in Korea and Japan
The Tastes of NANUM and OMOTENASHI

韓日食博

2015年8月27日(木) - 11月10日(火)

わかちあい
おもてなしのかたち



食 膳

Q. このチラシの表には、「五味五色」を表現
するのに14種類の食材を使っています。
それは、どんな食材でしょう？
(答えはチラシの下の方にあります。)



上 | 韓国農協のキャッチコピー「身土不二」
中 | キムジャン(キムチ作り)の準備風景
下 | キムチチゲ、シメはラーメيون



キムチ用壺

日韓国交正常化50周年を記念して、「韓国と日本の食文化と博物館」について韓国国立民俗博物館と共同で開催する展示です。1階では、韓国における「食の50年の歩み」、「キムチの世界」、「台所の世界」、「食の道具」、「食の思想」、「食の教育・情報」、「食と人生儀礼・歳時風俗」などを、日本との比較によって見ていただきます。そして、京都造形芸術大学と韓国芸術総合学校による「現代の若者たちの食生活」や「食の漫画に現れるオノマトペ(擬音語・擬態語)」などのアーティスティックな展示と、大阪工業大学による「餅つき」や「たこ焼き作り」などをバーチャルに体験できる情報工学的な展示も楽しめます。2階には、日韓両国の「食文化研究」、「食の博物館」、「食の漫画」や「子どもの絵画にみる韓国と日本の食」のコーナーなどがあります。また、地下には、韓国と日本のお菓子やお茶などをおき、ワークショップやレストランでも味の体験をしていただけます。

関連イベント

(詳しくはホームページをご覧ください)

みんなくゼミナール:

●「博物館は食をどう展示するか —特別展メイキング」

日時 | 9/19(土) 13:30-15:00 (13:00 開場)
場所 | 本館 講堂 申込不要、参加無料
講師 | 朝倉敬夫(国立民族学博物館 教授)
大野木啓人(京都造形芸術大学 教授)
佐野睦夫(大阪工業大学 教授)
金晃均(韓国芸術総合学校 教授)

● みんなくウィークエンド・サロン —研究者と話そう

日時 | 8/30(日)・11/8(日) 14:30-15:30
場所 | 特別展示館、本館展示場
申込不要、要展示観覧券

● 香りの体験「My 七味づくり」

日時 | 9/5(土)・26(土)・10/3(土)
13:00-14:00、14:30-15:30
場所 | 特別展示館地下 協力 | S&B
申込不要、先着順(毎回100名)
要展示観覧券

● 味わう体験「韓国の汁文化と発酵調味料」

日時 | 9/6(日)・27(日)・10/4(日) 15:00-16:00
講師 | 福留奈美(フードコーディネーター、お茶の水女子大学 専門食育士(上級))
要事前申込、参加費500円

● 食のオノマトペとカリグラフィー

日時 | 9/20(日) 13:00-14:30
講師 | カン・ピョンイン(カリグラファー)

● 火おこし体験

日時 | 10/18(日) 11:00-/13:00-/14:30- (各回1時間程度)
協力 | 大阪ガス(株)、大阪ガスビジネススクリエイト(株)

■ 韓国国立民俗博物館では、2015年12月9日(水)～2016年2月29日(月)に、同趣旨の展示を開催します。

主催 | 国立民族学博物館 韓国国立民俗博物館 共催 | 大阪工業大学 京都造形芸術大学 韓国芸術総合学校

協力 | 大阪韓国文化院 一般財団法人 千里文化財団

助成 | 韓国国際交流財団 日本万国博覧会記念基金(公益財団法人 関西・大阪21世紀協会) 公益財団法人 日韓文化交流基金

右上のクイズの答え: トウガラシ、コチュジャン、ホウレンソウ、ニラ、ピーマン、パプリカ、ニンジン、卵、シイタケ、ゼンマイ、海苔、胡椒、ゴマ、そしてご飯です。

- 開館時間..... 10時～17時(入館は16時30分まで) ● 休館日..... 水曜日(ただし、水曜日が祝日の場合は翌日が休館日)
- 観覧料..... 一般830円(560円) 高校・大学生450円(250円) 小・中学生250円(130円) ()は、20名以上の団体料金。
20名以上の学校団体は本館展示観覧料(高校・大学生200円、小・中学生90円)でご利用いただけます。
その他の観覧料割引については、ホームページ等でご確認ください。
- 無料観覧日..... 9/12(土)、9/21(月・祝)、11/3(火・祝)

交通のご案内

- 大阪モノレール..... 「万博記念公園駅」徒歩約15分
* 自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約15分
* 自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス..... 「近鉄バス」(阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車..... 万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から
徒歩約5分 * 「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。



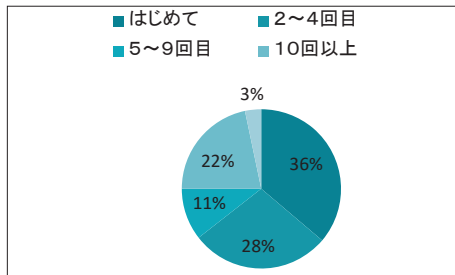
 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
TEL 06-6876-2151(代) URL <http://www.minpaku.ac.jp/>
公式 Facebook <http://www.facebook.com/MINPAKU.official>

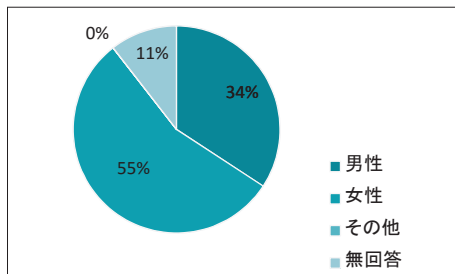
特別展「韓日食博ーわかちあい・おもてなしのかたち」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 152件

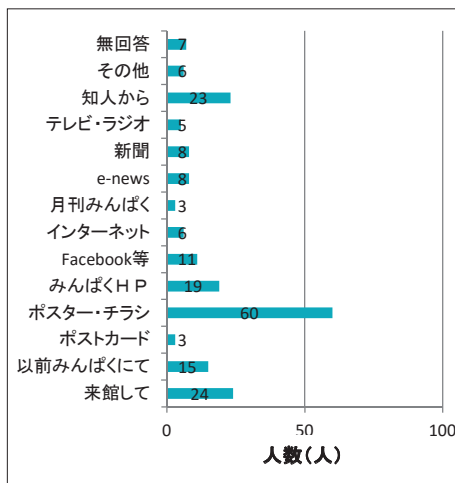
来館回数



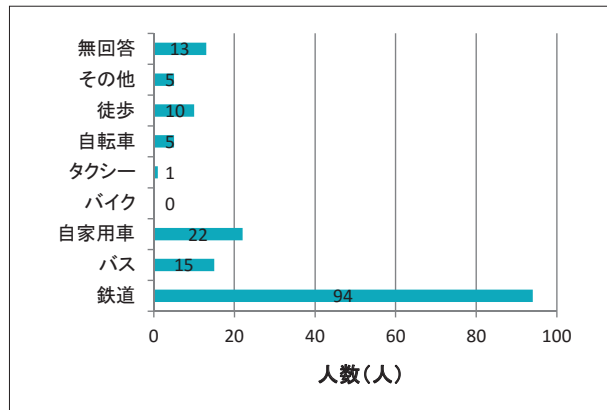
性別 (男女比)



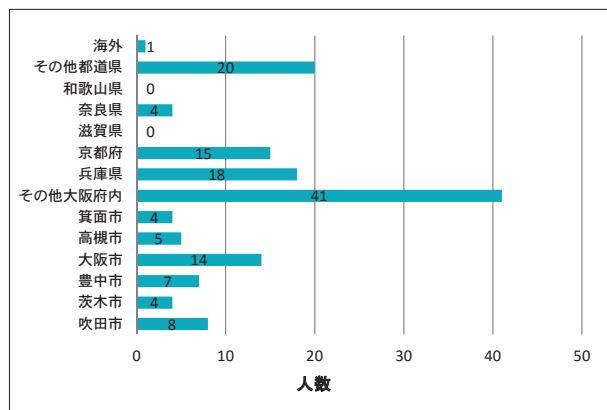
特別展を知ったのは (複数回答)



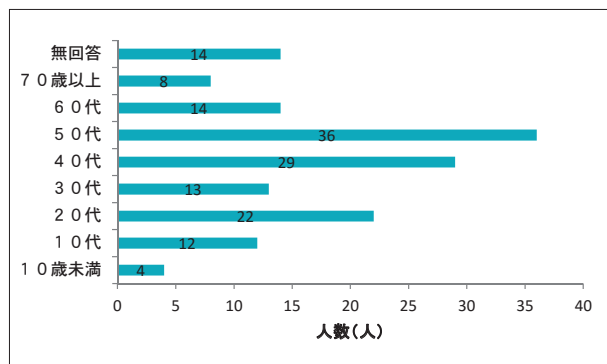
交通機関



どこから来られましたか？



年代別



みんぱく

年末年始展示イベント

さる、時々ひと
ところにより、
神

さる

会 期 2015年12月10日(木)
～ 2016年1月26日(火)

時 間 10:00～17:00 入館は16:30まで

場 所 国立民族学博物館 本館展示場 ナビひろば

休館日 水曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料 無料

ただし、本イベント以外の本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です。
※本イベントのみ観覧される方は、自然文化園(有料区域)を通行される場合、入園料が必要です。



国立民族学博物館

第12回を迎える年末年始恒例の干支展示イベント。
2016年の干支「申」にちなんで「さるになるひと」、
「かみになるさる」、「ひとになるさる」の3つのキーワードで
みんなくにいる「さる」を紹介します。

トークイベント

「みんなく×ニフレルー人と生き物をつなぐ」

小畑洋(ニフレル館長)

「『つながり』にふれる」

池谷和信(国立民族学博物館教授)

「世界の諸文化からみた生き物と人
ー地球をフィールドワークするー」

2016年1月11日(月・祝)〈無料観覧日〉13:30~15:00

場所/本館 2階第5セミナー室

司会/上羽陽子(国立民族学博物館准教授)

定員/100名(要事前申込) 参加無料

主催/国立民族学博物館、株式会社海遊館(ニフレル) ※詳細はホームページをご参照ください。

関連プログラム

ふむふむ なるほど! みんなく初歩き

ワークブックとえんぴつをもって展示場をめぐる!

2016年1月11日(月・祝)〈無料観覧日〉10:30~16:30(受付終了16:00)

場所/本館展示場、本館1階 エントランスホール

定員/350名(当日随時受付・先着順) 参加無料 ※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

みんなくミュージアムパートナーズ(MMP)企画

おりがみで遊ぼう!~干支シリーズ~「申」

新年初折りに挑戦!がんばって三猿を折ってみよう

2016年1月11日(月・祝)〈無料観覧日〉

11:00~11:30~/13:00~/13:30~/14:00~(各回30分程度)

場所/本館1階 エントランスホール

定員/各回10名(当日受付・先着順) 参加無料 ※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

干支の申で絵馬を作ろう

展示場のさるをスケッチしよう! みんなで大きな絵馬ができるかな

2016年1月24日(日) 10:00~16:00

場所/本館1階 エントランスホール

定員/80名(当日随時受付・先着順) 参加無料 ※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

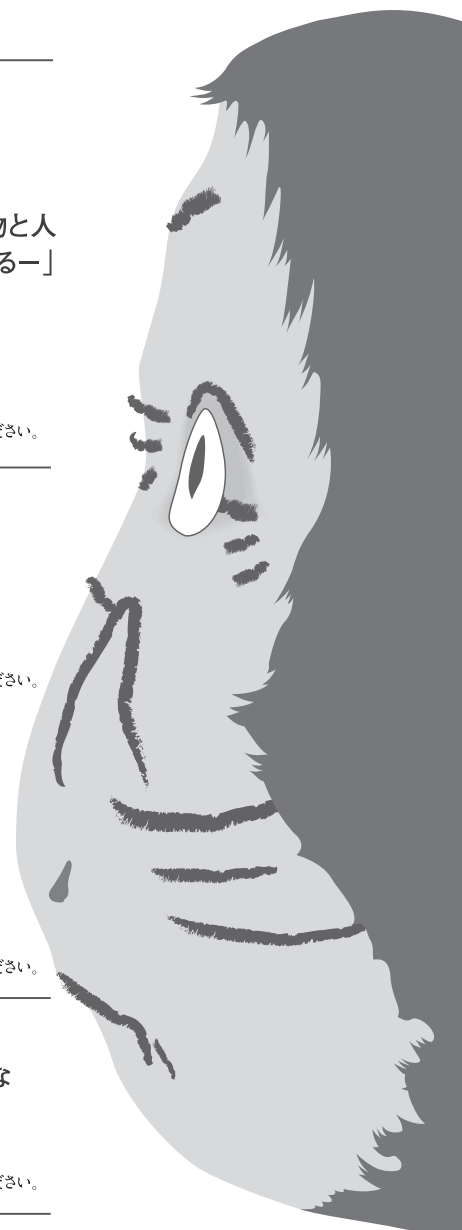
西アフリカの昔話を語る

干支の動物が西アフリカの昔話に登場するよ!どんな動物がお楽しみに

2016年1月24日(日) 11:30~12:00/14:00~14:30

場所/本館1階 エントランスホール 参加無料

本チラシは「展示活動研修会」として、
みんなくの教職員研修をかねた有志から
なるチーム「“猿”joy!」が作成しました。



さる

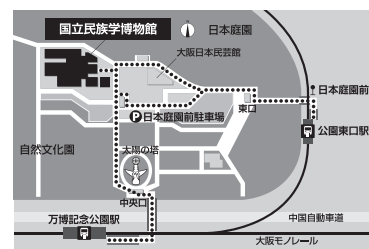


国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール…………「万博記念公園駅」徒歩約15分
※自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
- バス…………「公園東口駅」徒歩約15分
※自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- 乗用車…………「近鉄バス」(阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、
JR 茨木駅から約10分、「日本庭園前」下車徒歩約13分
万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

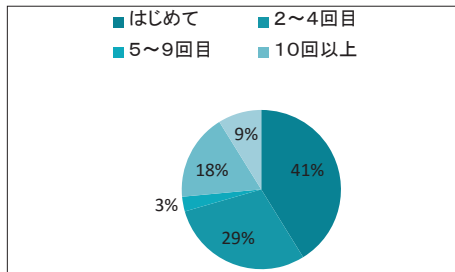
[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



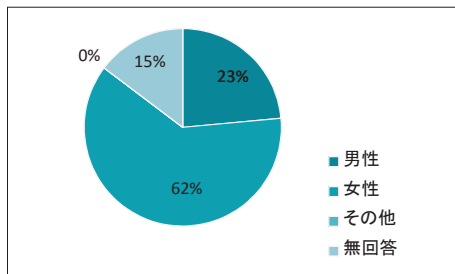
「年末年始展示イベントさる」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 34件

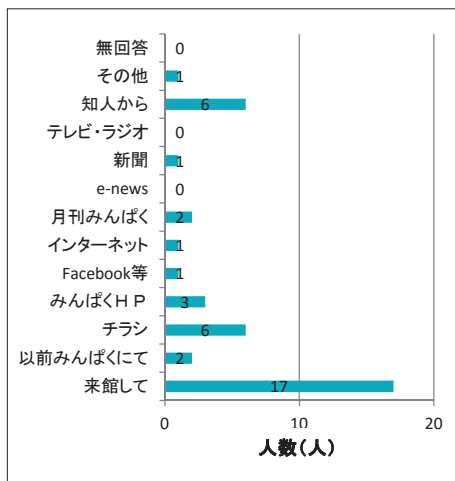
来館回数



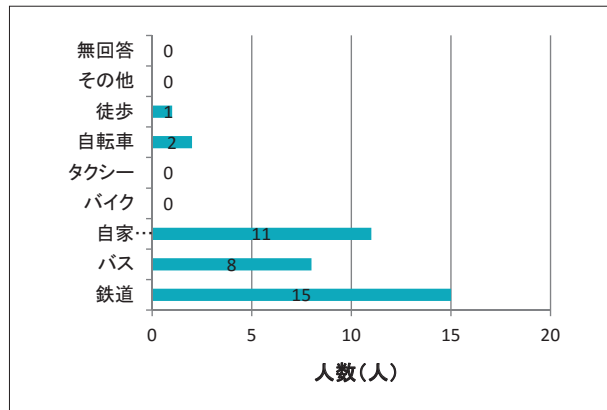
性別（男女比）



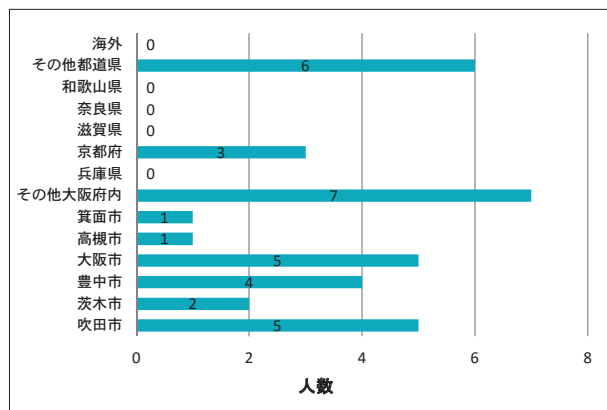
企画展を知ったのは（複数回答）



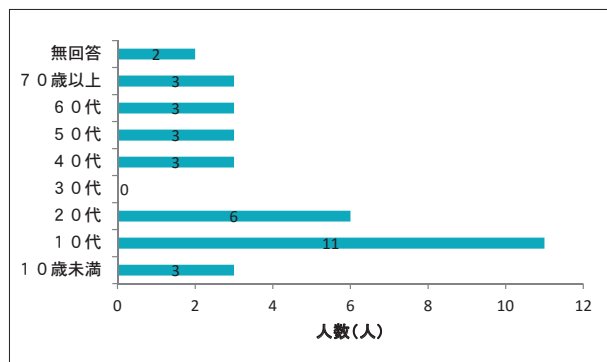
交通機関



どこから来られましたか？



年代別



文化資源関連事業

資料：JICA との連携による博物館学コース 2015年度研修内容

プログラム

研修項目は、共通プログラム（約7週間）と個別研修プログラム（約3週間）からなる。

- 共通プログラムは、博物館活動全般を理解するための講義・実習（表参照）と研修旅行からなる。各講義には、各研修参加者の国や博物館の特徴、問題点などの紹介と討論の時間を含めるなど、講師や各研修参加者との相互交流・情報共有を図るための工夫を加えている。2015年度の研修旅行は大阪などの近隣博物館のほか、奈良、広島、中越、東京であった。週末などに自主的に見学した博物館等を含めると、研修参加者は日本での研修期間中に多くの施設を訪れたことになり、これを通じて日本の博物館事情や文化を理解してもらう素地ができたものと考えられる。
- 個別研修プログラムは、各週、それぞれ一つのテーマを選択する。第1週は、「予防保存」「展示デザイン」「民族誌映像の撮影と編集」、第2週は「資料の保存と修復」「景観模型製作」「写真」、そして第3週は「考古資料の発掘と保存管理」「地域歴史博物館の運営（マネジメント）」「記録とデータベース」からの選択であった。

研修参加者には、自国の博物館事情等を紹介するミュージアムレポート、自身の専門に関する専門レポート、研修期間の最後に帰国後の普及計画を発表するファイナルレポート（普及プログラム案）などの発表の場が用意された。専門レポートは、自身の専門について報告するもので、自身の経験と問題点を、他の研修参加者及び日本側の関係者が学び、相互に議論する好機となった。また、ファイナルレポートでは、各研修参加者は、制度的・予算的に実現可能な普及プログラム案の策定に取り組み、本コースの成果が母国に順次、普及されることが期待できる内容であった。JICA では、研修終了から半年以内にその成果や進捗状況を検証することとなっている。

2015年11月3日（文化の日）には、民博において、ミュージアムレポートをさらに一層、展開させた公開フォーラム「世界の博物館2015」が開催された。一般参加者56名と関係者23名、計89名の人びとが集い、普段なかなか知る機会のない、今年度の参加国8カ国の博物館事情に関する報告を聞くことができた。この公開フォーラムは、また、終了後に開かれた交流会とともに、研修参加者と一般の人びとや博物館関係者、学生が直接、交流できる貴重な場となった。

項 目	詳 細
(1)博物館学総論	日本での博物館制度
	日本の博物館
	知的財産
	博物館の建築
(2)博物館運営	博物館の運営
	博物館と観光
	博物館とマーケティング
	ミュージアムショップマネジメント
(3)収集・保存	資料整理と利用（収集品の活用と管理）
	文化遺産の保存と修理（保存と復元）
	輸送と梱包（梱包と輸送）
	リスクマネジメント、災害対応
(4)展示	博物館と文化表象
	常設展示（デザインと導入）
	特別展示（デザインと導入）
	評価（来館者調査）
(5)コミュニティと社会連携	博物館の教育活動
	博物館の広報活動
	博物館とバリアフリー
	平和教育
(6)博物館と地域社会	博物館とコミュニティ開発
	地域社会との連携
	地域の歴史の表象
	博物館活動における住民参加
(7)普及プログラム	



スタッフ紹介



スタッフ紹介（2015年度）

野林厚志 [のばやし あつし] センター長（併）教授

園田直子 [そのだ なおこ] 教授

信田敏宏 [のぶた としひろ] 教授

吉田憲司 [よしだ けんじ] 教授

上羽陽子 [うえば ようこ] 准教授

林 勲男 [はやし いさお] 准教授

日高真吾 [ひだか しんご] 准教授

福岡正太 [ふくおか しょうた] 准教授

山本泰則 [やまもと やすのり] 准教授

川瀬 慈 [かわせ いつし] 助教

寺村裕史 [てらむら ひろふみ] 助教